

(2) 動物

ア. 動物相及び注目すべき種の状況

① 動物相

a. 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)によれば、仙台市の山地から丘陵地に広がる森林域には本州最大の哺乳類であるツキノワグマや、特別天然記念物であるカモシカをはじめ、ヤマネ、ニホンザル、キツネ、タヌキ、ニッコウムササビ、ニホンリスなどの哺乳類が生息している。近年、二次林の放置などを一因と考えられるツキノワグマ、ニホンカモシカの低地丘陵への分布拡大が確認される。鳥類ではオオルリ、ゴジュウカラ、キビタキ、アカゲラなどの森林性の鳥類が多く分布し、山地帯を中心にクマタカも生息している。爬虫類ではマムシやジムグリのほか、自然度が高い林床を好むタカチホヘビや比較的珍しいシロマダラなども生息している。両生類では山地の溪流にハコネサンショウウオが生息し、トウホクサンショウウオは丘陵地の沢などに広く生息している。また、池沼の縁の樹木の枝に卵塊を産み付けるモリアオガエルや清流の環境を指標するカジカガエルも生息している。魚類では山地の溪流でイワナ、ヤマメが生息する。一方、丘陵地の池沼などでは近年、オオクチバス(ブラックバス)やブルーギル、タイリクバラタナゴといった移入種により、在来の魚類の生息が脅かされている。昆虫類ではオニクワガタ、カミキリムシ類、ミドリシジミ類などの森林性の昆虫類が多数生息し、丘陵地では生きた化石といわれるヒメギフチョウなども生息している。また、泉ヶ岳付近は山地性チョウ類の主要な生息地になっている。丘陵地の湿地ではオゼイトトンボなどのトンボ類も多く生息している。

市街地や田園地域では、人の生活空間の拡大や圃場整備などにより動物の生息環境が減少しているが、市街地に残された公園や田園地域に見られる居久根などの緑地や、河川沿いなどでキツネ、イタチ、カワセミ、アオダイショウ、ミヤマクワガタなどの動物が生息している。市街地に残された緑地ではオオタカの繁殖も確認される。

また、「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)によれば、大和町では、哺乳類はカモシカ、ツキノワグマ、ヤマネ、オコジョ等が生息している。鳥類はコマドリ、イワヒバリ、クマタカ等が生息している。両生類では、モリアオガエル等の生息地が確認されている。

b. 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、対象事業計画地周辺を含む調査地域(対象事業計画地及びその周辺 100m~1,000m の範囲)で動物相調査を実施している。動物相調査実施日は表 3.1-110、動物相確認種数一覧表は表 3.1-111 に示すとおりである。

確認された動物種は、全部で 635 種となっている。対象事業計画地内は、コナラ林、ハンノキ林を主体とし、アカマツ植林やスギ植林のほか、ススキ群落、湿生植物群落、水田雑草群落、開放水面、沢など動物の多様な生息環境がみられ、動物相も多様である。

表 3.1-110 動物相調査実施日（平成 12 年 3 月評価書）

項目	調査内容	夏季調査	秋季調査	冬季調査	春季調査
哺乳類	フィールドサイン調査	平成 9 年 8 月 26 日, 平成 10 年 7 月 10 日	平成 9 年 10 月 1 日, 2 日, 7 日, 11 月 21 日	平成 10 年 1 月 30 日, 2 月 12 日	平成 10 年 3 月 30 日, 5 月 11 日, 25 日, 26 日
	捕獲調査	—	平成 9 年 10 月 1 日, 2 日	—	平成 10 年 5 月 25 日, 26 日
	写真撮影調査	—	—	—	平成 10 年 5 月 25 日, 26 日
	コウモリ類調査	平成 10 年 7 月 31 日	—	—	—
鳥類	ライセンス調査	平成 9 年 8 月 26 日	平成 9 年 10 月 7 日	平成 10 年 1 月 30 日	平成 10 年 5 月 26 日
	定点センサ調査	平成 9 年 8 月 26 日	平成 9 年 10 月 7 日	平成 10 年 1 月 30 日	平成 10 年 5 月 26 日
	夜間調査	平成 10 年 7 月 10 日	—	—	平成 10 年 3 月 13 日
	希少猛禽類調査	平成 9 年 2 月～平成 10 年 7 月			
両生・爬虫類	任意確認調査	平成 9 年 8 月 26 日, 平成 10 年 7 月 10 日	平成 9 年 9 月 16 日, 10 月 7 日	—	平成 10 年 3 月 30 日, 4 月 6 日, 5 月 25 日, 26 日
水生動物 (魚類, 底生動物)	捕獲調査	平成 9 年 8 月 31 日, (9 月 16 日※)	—	—	平成 10 年 5 月 25 日, 26 日
昆虫類	任意確認採取調査	平成 10 年 7 月 10 日, 8 月 1 日, 3 日	平成 9 年 10 月 7 日, 8 日	—	平成 10 年 5 月 18 日, 19 日
	ベイトトラップ調査	平成 10 年 8 月 1 日, 3 日	平成 9 年 10 月 7 日, 8 日	—	平成 10 年 5 月 18 日, 19 日
	ライトトラップ調査	平成 10 年 8 月 1 日	平成 9 年 10 月 7 日	—	平成 10 年 5 月 18 日
	夜間調査	平成 10 年 7 月 10 日	—	—	—

※水生動物の平成 9 年 9 月 16 日の調査は夏季調査の補足調査

※昆虫類は、陸上昆虫類の確認種数を示す。

※底生動物は、扁形動物、軟体動物、環形動物、クモ類、甲殻類、水生昆虫類の確認種数を示す

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 3.1-111 動物相確認種数一覧表（平成 12 年 3 月評価書）

分類群	目数	科数	種数
哺乳類	5	9	14
鳥類	13	31	105
両生類	2	6	11
爬虫類	1	3	5
水生生物（魚類）	5	6	16
水生動物（底生動物）	20	59	118
昆虫類	10	100	366

※昆虫類は、陸上昆虫類の確認種数を示す。

※底生動物は、扁形動物、軟体動物、環形動物、クモ類、甲殻類、水生昆虫類の確認種数を示す

※底生動物の種数は、種未同定種（～の一種）も含む

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 3.1-112 動物相の生息状況（平成 12 年 3 月評価書）

項目	動物相の特徴
哺乳類	<p>捕獲調査ではヒミズ・アカネズミ・ヒメネズミの 3 種を捕獲確認した。捕獲地点別についてみるとネズミ類は■■■■で捕獲し、スギ植林地ではヒミズを捕獲した。また、総捕獲個体数は 4 個体と少ない結果であった。</p> <p>冬季のアニマルトラッキング調査ではノウサギ、ニホンリス、タヌキ、キツネの足跡を積雪上で多く確認し、カモシカの足跡も確認した。</p> <p>写真撮影調査及びバットディテクターによるコウモリ類の調査では確認種はなかった。貴重種としてはジネズミ、ツキノワグマ、アナグマ、カモシカの 4 種を確認した。</p>
鳥類	<p>①夏季調査 繁殖期も終わりに近づき、さえずりによる確認が少なくなるが、■■■■ではウグイス、■■■■ではホオジロのさえずりもまだ聞こえた。また、樹林地内ではシジュウカラやエナガの巣だち雛を含んだ群や、■■■■ではハリオアマツバメやツバメの飛翔を確認した。</p> <p>②秋季調査 開発地域の主要部を占めるコナラ、アカマツ等の樹林地では、エナガ、シジュウカラ等がカラ混群をつくり活動しており、カケス、ヒヨドリも多く確認した。</p> <p>③冬季調査 樹林地では、シジュウカラ、エナガ、ヒガラ等がカラ混群をつくり活動しており、カケス、ヒヨドリ、カワラヒワも多く確認した。また、標高の高い所より漂行してきたミソサザイ、ルリビタキ、キクイタダキやヒガラ、コガラ等の確認も多くなっていた。</p> <p>④春季調査 ほとんどの鳥類の繁殖期となっているためさえずりによる確認が多くなり、特に■■■■ではウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ等、■■■■ではホオジロ、カワラヒワ等が目立った。■■■■に、フクロウを鳴き声により確認した。また、■■■■ではトビや夏鳥として渡来したツバメの飛翔を多く確認した。</p>
両生類 爬虫類	<p>現地調査における確認種は、両生類 2 目 6 科 11 種、爬虫類は 1 目 3 科 5 種であった。</p> <p>貴重種としてはトウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ、タゴガエルの 3 種の両生類を確認した。また、爬虫類についての貴重種は確認できなかった。</p>
水生生物 (魚類 底生動物)	<p>現地調査により確認した魚種は、5 目 6 科 16 種であった。また、魚類の貴重種としてはギバチ 1 種を確認した。</p> <p>現地調査により確認した底生動物は、5 門 8 綱 20 目 59 科 118 種であった。また、底生昆虫の貴重種としてはタガメ 1 種を確認した。</p>
昆虫類	<p>調査地域の環境は、丘陵地帯がクリ・コナラなどの落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ植林などの針葉樹林になっており、調査地南西部には水田・畑などの耕作地及び休耕地になっている。</p> <p>また調査地各地に開放水域がある。確認種の構成は、宮城県の平地及び低山地に普通に生息している種が主体であった。</p>

※貴重種とは「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）における注目すべき種である。

※昆虫類は、陸上昆虫類の確認種数を示す。

※底生動物は、扁形動物、軟体動物、環形動物、クモ類、甲殻類、水生昆虫類の確認種数を示す。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

② 注目すべき動物種

a. 文献調査

注目すべき動物種は、「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）の選定基準を採用し、学術上重要種、減少種、環境指標種及びふれあい保全種の該当種、並びに環境省レッドリスト・宮城県レッドリスト・文化財保護法・種の保存法の該当種とした（表 3.1-99～表 3.1-100 参照）。

調査範囲における注目すべき動物種数は表 3.1-113、分類群ごとの注目すべき動物種は表 3.1-114～表 3.1-121 に示すとおりである。「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）に記載のある動物種のうち、調査範囲に生息する注目すべき動物種は 88 種であり、その分布地は朴沢、芋沢、丸田沢、三共堤等である。また、「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）に記載のある動物種のうち、調査範囲に生息する注目すべき動物種は 16 種であり、その分布地は、大和町宮床地区である。

b. 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、調査地域（対象事業計画地及びその周辺 100m～1,000m の範囲）で動物相調査を実施している。確認された注目すべき動物種は、表 3.1-114～表 3.1-121 に示す 84 種であり、確認位置は、図 3.1-37 ～図 3.1-43 に示すとおりである。

以上 3 つの文献に記載の調査範囲における注目すべき種は、全部で 122 種である。

表 3.1-113 注目すべき動物種の種数

項目	目数	科数	種数	文献			学術上重要種	仙台市重要種区分							国 RL	県 RL	天記・種保存法
				文献①	文献②	文献③		注目種									
								減少種					環境指標種	ふれあい保全種			
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜					
哺乳類	4	7	9	7	3	8	3	8	7	5	5	4	5	5	0	1	1
鳥類	12	24	56	46	6	44	17	35	49	50	43	36	36	15	12	18	2
両生類	2	4	8	3	2	8	2	8	8	8	3	2	6	4	4	5	0
爬虫類	1	2	2	2	1	1	1	2	2	2	1	1	2	2	0	0	0
水生生物（魚類）	6	7	9	5	1	5	4	4	7	6	4	3	5	5	7	4	0
水生生物（底生動物）	4	5	6	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0
昆虫類	7	24	32	25	3	12	16	2	23	17	10	0	7	7	12	12	0
合計	36 目	73 科	122 種	88 種	16 種	84 種	44 種	59 種	96 種	88 種	66 種	46 種	61 種	38 種	40 種	43 種	3 種

※国 RL：「環境省第 4 次レッドリスト」（平成 24・25 年 環境省報道発表資料）掲載種

県 RL：「宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト 2013 版—」（平成 25 年 3 月 宮城県）掲載種

天記：「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）

種保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成 4 年法律第 75 号）

※文献①：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）

②：「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）

③：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

※減少種の地域区分については、表 3.1-100 を参照

表 3.1-114 注目すべき動物種【哺乳類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RL	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種													
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種	ふれあい保全種							
1	モグラ	モグラ	アズマモグラ			○		*	C	C	C	*		○							
2	ネズミ	リス	ニホンリス	○		○		*	C	B		C		○				芋沢			
3		ネズミ	ハタネズミ	○				C	C	B	C	C	○	○				朴沢			
4		ネズミ	ヒメネズミ	○		○		*	C	C	/		○					朴沢, 芋沢			
5	ネコ	クマ	ツキノワグマ	○	○	○	4											朴沢, 大和町宮床地区			
6		イヌ	タヌキ	○	○	○		*	C		C		○	○				朴沢, 大和町宮床地区			
7		イタチ	イタチ	○		○		C	C	B	C	C	○	○				朴沢, 芋沢			
8		イタチ	アナグマ	○		○	4	C	C										朴沢		
9	ウシ	ウシ	カモシカ		○	○	4	*					○			要	特天	大和町宮床地区			
	4目	7科	9種	7種	3種	8種	3種	8種	7種	5種	5種	4種	5種	5種	0種	1種	1種				

※1：表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
- ③「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

※2：表中の分布地は、文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3：表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4：減少種の地域区分については、表 3.1-100 を参照

表 3.1-115 注目すべき動物種【鳥類】(1/2)

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RL	県 RL	天記・ 種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種					環境指標種	ふれあい保全種							
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜									
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○		○			C	B	C	C	○	○				朴沢, 丸田沢			
2	コウノトリ	サギ	チュウサギ			○	1, 2, 4		C	A	C	C			NT						
3			コサギ			○	2		C	B	*	*	○	○							
4	タカ	タカ	ミサゴ	○	○	○	1, 4					C	C	○		NT		三共堤, 七北田川, 大和町宮床地区			
5			ハチクマ	○		○	1, 4	C	C						NT	NT		朴沢, 芋沢			
6			オオタカ	○		○	1, 4	C	C	B	B	C	○	○	NT	NT	希少	福岡, 七北田川			
7			ツミ	○			1, 4	C	C	C	C	C				DD		芋沢			
8			ハイタカ	○		○	1, 4	C	C	C	C	C			NT	NT		丸田沢, 朴沢, 芋沢			
9			ノスリ			○		*	C	C	C		○								
10			サンバ	○		○		C	C	A	C	C			VU	VU		朴沢, 芋沢			
11			チュウヒ			○			C	B	C	C	○		EN	NT					
12		ハヤブサ	ハヤブサ			○	1, 4	C	B	B	B	B			VU	NT	希少				
13			チゴハヤブサ	○		○	1, 4		B	B	B				CR+EN			朴沢			
14			チョウゲンボウ	○		○			C	B	C	B		○				朴沢, 芋沢			
15	キジ	キジ	ヤマドリ	○		○		*	C				○					朴沢, 芋沢			
16	ツル	クイナ	クイナ	○					C	A	B	B	○			要		三共堤			
17			ヒクイナ	○					C	B	B	B	○	○	NT	CR+EN		丸田沢			
18			オオバン	○			1				B	B						水の森公園			
19	チドリ	チドリ	イカルチドリ	○		○		C	C	B	B		○					丸田沢, 芋沢			
20	カッコウ	カッコウ	カッコウ	○		○		C	C	B	C	C	○	○				七北田川			
21			ホトトギス	○		○		*	*	C	C	C	○	○				丸田沢, 朴沢, 芋沢			
22	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	○			1	C	C	C	B	B				要		丸田沢			
23			アオバズク	○					C	B	B	B	○		VU			みやぎ台			
24			フクロウ	○		○		C	C	B	B	C	○	○				泉パークタウン			
25	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ			○										要					
26	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	○		○				B			○			要		丸田沢堤			
27			アカショウビン	○			1	C								要		朴沢			
28			カワセミ	○		○			C	C	C		○	○				七北田川			
29	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	○		○		*	C	B	C	C	○	○				丸田沢, 朴沢, 芋沢			
30			アカゲラ	○	○	○		*	C	B	C	C						丸田沢, 朴沢, 芋沢, 大和町宮床地区			
31	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	○		○			C	B	C	C	○	○				丸田沢, 芋沢			
32		ツバメ	ツバメ		○	○			C	C	C		○					大和町宮床地区			
33		セキレイ	キセキレイ	○		○		*	C	C	C		○	○				丸田沢, 朴沢, 芋沢			
34			セグロセキレイ	○	○	○	4	C	C	C	C							丸田沢, 朴沢, 芋沢, 大和町宮床地区			
35		サンショウクイ	サンショウクイ	○		○	1, 4	C	C	B	C	C			VU	VU		丸田沢, 朴沢, 芋沢			
36		モズ	モズ	○		○		*	C	B	C	C	○	○				丸田沢, 芋沢			
37			アカモズ	○			1, 4		B	B	B	B			EN	CR+EN		七北田川			
38		カワガラス	カワガラス	○		○		*	C	B			○					芋沢			
39		ツグミ	コルリ	○		○		*	C	B	C	C	○					丸田沢, 芋沢			
40			ルリビタキ	○				*	C	C	C	C						丸田沢, 朴沢, 芋沢			
41			トラツグミ	○		○		*	C	B	C	C	○					丸田沢, 朴沢, 芋沢			
42			クロツグミ	○		○		*	C	B	C	C	○					丸田沢, 朴沢, 芋沢			

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 3.1-100 を参照

表 3.1-116 注目すべき動物種【鳥類】(2/2)

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RL	県 RL	天記・種保存法	分布地
				①	②	③	学術上重要種	注目種						ふれあい保全種						
								減少種												
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種							
43	スズメ	ツグミ	シロハラ	○				*	C	B				○				丸田沢, 朴沢, 芋沢		
44		ウグイス	ウグイス	○	○	○		*	*	C	C	C		○				丸田沢, 朴沢, 芋沢, 大和町宮床地区		
45			オオヨシキリ			○				C	B	C	C	○						
46			センダイムシクイ	○		○		*	C	B				○				丸田沢, 朴沢, 芋沢		
47			セッカ	○		○				C	B	C	C	○					丸田沢, 七北田川	
48			ヒタキ	キビタキ	○		○		*	C	B			○					丸田沢, 朴沢, 芋沢	
49		オオルリ				○		*	C	C	C	C	○							
50		コサメビタキ		○		○					B			○				丸田沢, 朴沢		
51		カササギヒタキ	サンコウチョウ	○		○				C	B			○	○			芋沢		
52		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○				*			B			○				朴沢, 芋沢		
53		ホオジロ	ホオジロ	○	○	○		*	*	B	C	C	○						丸田沢, 朴沢, 芋沢, 大和町宮床地区	
54			ホオアカ	○			1	B	C	A	C	B	○					丸田沢, 芋沢		
55			ノジコ			○	1	C	C	B						NT	要			
56			アオジ	○		○		C	C	C	C	C							丸田沢, 朴沢, 芋沢	
		12 目	24 科	56 種	46 種	6 種	44 種	17 種	35 種	49 種	50 種	43 種	36 種	36 種	15 種	12 種	18 種	2 種		

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 3.1-100 を参照

表 3.1-117 注目すべき動物種【両生類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										天記・種保存法	分布地		
				①	②	③	学術上重要種	注目種												
								減少種												
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種	ふれあい保全種	国 RL	県 RL				
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	○		○	1,4	*	C	B				○		NT	NT		丸田沢	
2			クロサンショウウオ			○	4	*	C	A				○	○	NT	LP			
3			イモリ	アカハライモリ			○		*	C	A				○	○	NT	LP		
4	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル			○		*	C	C	C	C			○					
5			アカガエル	タゴガエル		○	○		*	C	B				○					大和町宮床地区
6			ニホンアカガエル		○	○	○		*	*	B	*	C							根白石, 福岡, 芋沢, 大和町宮床地区
7			トウキョウダルマガエル				○		C	C	B	C			○	○	NT	NT		
8			ツチガエル		○		○		*	C	B				○			NT		芋沢
	2目	4科	8種	3種	2種	8種	2種	8種	8種	8種	3種	2種	6種	4種	4種	5種	0種			

※1: 表中の文献は以下のとおりである。
 ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)
 ※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。
 ※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。
 ※4: 減少種の地域区分については, 表 3.1-100 を参照

表 3.1-118 注目すべき動物種【爬虫類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種											
								減少種											
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種	ふれあい保全種	国 RL	県 RL			
1	有鱗	トカゲ	ニホントカゲ	○	○		1	C	C	A				○	○				大和町宮床地区, 芋沢
2			ナミヘビ	アオダイショウ	○		○		*	*	C	C	C	○	○				上谷刈, 福岡
	1目	2科	2種	2種	1種	1種	1種	2種	2種	2種	1種	1種	2種	2種	0種	0種	0種		

※1: 表中の文献は以下のとおりである。
 ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)
 ※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。
 ※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。
 ※4: 減少種の地域区分については, 表 3.1-100 を参照

表 3.1-119 注目すべき動物種【水生生物（魚類）】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RL	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種						ふれあい保全種							
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種								
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ南方種	○			1	C	B		C					VU			七北田川		
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	○			1	A	B	B	B	B	○		EN	NT		七北田川			
3	コイ	コイ	キンブナ			○									VU	NT					
4			ウグイ		○		*	C	B	C	C	○	○					七北田川			
5		ドジョウ	ドジョウ			○	○								DD			大和町宮床地区			
6			ホトケドジョウ			○	1		B	B			○	○	EN	NT					
7	ナマズ	ギギ	ギバチ			○	1		*	C				○	VU	NT					
8	サケ	アユ	アユ	○					C	C	C	C	○	○				七北田川			
9	カサゴ	カジカ	カジカ(カジカ大卵型)	○		○		C	C	A			○	○	NT			芋沢川, 七北田川			
	6 目	7 科	9 種	5 種	1 種	5 種	4 種	4 種	7 種	6 種	4 種	3 種	5 種	5 種	7 種	4 種	0 種				

- ※1: 表中の文献は以下のとおりである。
 ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)
 ※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。
 ※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。
 ※4: 減少種の地域区分については, 表 3.1-100 を参照

表 3.1-120 注目すべき動物種【水生生物（底生動物）】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RL	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種						ふれあい保全種							
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種								
1	原始紐舌	タニシ	マルタニシ			○									VU	DD					
2			オオタニシ			○									NT	DD					
3	基眼	モノアラガイ	モノアラガイ			○									NT						
4			ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ			○								DD						
5	イシガイ	イシガイ	カラスガイ			○									NT	CR+EN					
6	ワラジムシ	ミズムシ	ミズムシ			○	1														
	4 目	5 科	6 種	0 種	0 種	6 種	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	5 種	3 種	0 種				

- ※1: 表中の文献は以下のとおりである。
 ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)
 ※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。
 ※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。
 ※4: 減少種の地域区分については, 表 3.1-100 を参照

表 3.1-121 注目すべき動物種【昆虫類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RL	県 RL	天記・種保存法	分布地
				①	②	③	学術上重要種	注目種							ふれあい保全種					
								減少種					環境指標種							
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜								
1	トンボ	イトトンボ	モートンイトトンボ	○						B							NT		福岡	
2		カワトンボ	アオハダトンボ	○			1		B	A							NT		七北田川, 花輪川	
3		ヤンマ	ヤブヤンマ	○					B		B							VU	丸田沢緑地, 芋沢, 朴沢	
4		サナエトンボ	モイワサナエ	○					C										芋沢	
5			ナゴヤサナエ	○			1,2			C							VU	CR+EN	七北田川	
6		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	○			1,4		C				○						芋沢, 塩野沢, 丸田沢	
7		オニヤンマ	オニヤンマ	○		○			*	B				○					丸田沢緑地, 芋沢, 朴沢	
8		エゾトンボ	オオトラフトンボ	○			1	C	C								CR+EN		芋沢	
9		トンボ	ハッチョウトンボ	○			1		B	A			○				CR+EN		福岡, 芋沢	
10			コノシメトンボ	○			1		A								CR+EN		福岡	
11			ヒメアカネ	○			1		B	A							CR+EN		福岡, 芋沢	
12	カマキリ	カマキリ	オオカマキリ	○					*	C	C			○					芋沢, 朴沢, 丸田沢	
13	バッタ	バッタ	トノサマバッタ	○	○	○			*	C	*			○					芋沢, 朴沢, 大和町宮床地区	
14	カメムシ	セミ	エゾゼミ	○					*	B			○	○					水の森, 芋沢, 朴沢, 丸田沢	
15		コオイムシ	コオイムシ	○			1		B	A	A					NT	NT		朴沢	
16			タガメ			○	1		B	A	A		○			VU	CR+EN			
17		タイコウチ	タイコウチ	○			1		B		A								芋沢	
18	アミメカゲロウ	ツノトンボ	オオツノトンボ			○	1													
19	チョウ	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ	○			1		C	B									館	
20		ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	○	○	○			C	C	C		○						塩野沢, 大和町宮床地区	
21	コウチュウ	オサムシ	セアカオサムシ			○										NT	NT			
22			ニッコウオオズナガゴミムシ	○			1	C											芋沢	
23		ハンミョウ	ハンミョウ	○		○			B	B									朴沢	
24		ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ	○					C	B	B					NT			芋沢, 朴沢	
25			ゲンゴロウ	○			1			B	B		○			VU	NT		芋沢, 朴沢	
26			マルガタゲンゴロウ			○											VU			
27			ケシゲンゴロウ			○											NT			
28		コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ			○											VU	DD		
29		ガムシ	ガムシ			○											NT			
30		クワガタムシ	ミヤマクワガタ	○	○				C	B			○	○					芋沢, 朴沢, 大和町宮床地区	
31		タマムシ	ツシムムツボシタマムシ	○			1		C										朴沢	
32		ホタル	ゲンジボタル	○		○	1		C	B	C		○	○			NT		朴沢, 福岡 (消失), 実沢 (消失), 芋沢, 北長坂	
	7目	24科	32種	25種	3種	12種	16種	2種	23種	17種	10種	0種	7種	7種	12種	12種	0種			

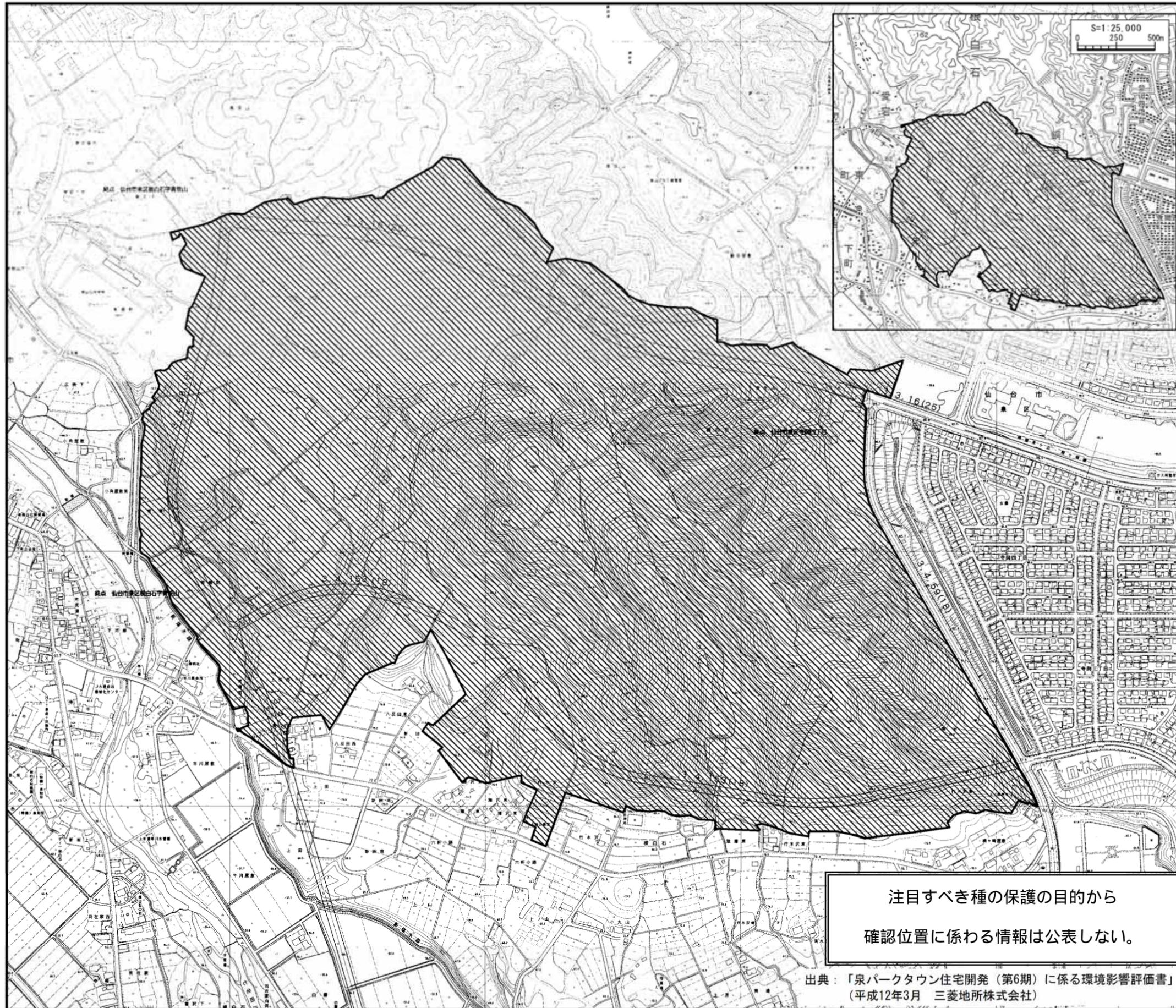
※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③「泉パークタウン住宅開発 (第 6 期) に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

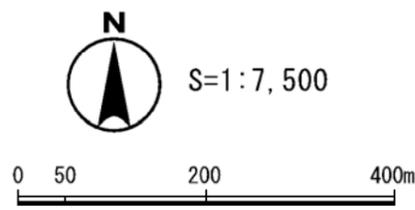
※4: 減少種の地域区分については, 表 3.1-100 を参照



凡 例	
注目すべき種	
▲	アズマモグラ
★	ニホンリス
●	ヒメネズミ
▲	ツキノワグマ
▲	タヌキ
●	イタチ
■	アナグマ
●	カモシカ
確 認 種	
★	ジネズミ
●	ヒミズ
■	ノウサギ
◆	アカネズミ
■	キツネ
★	テン
▨	対象事業計画地

※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。
 ※出典で位置が確認できた注目種のみを記載した。

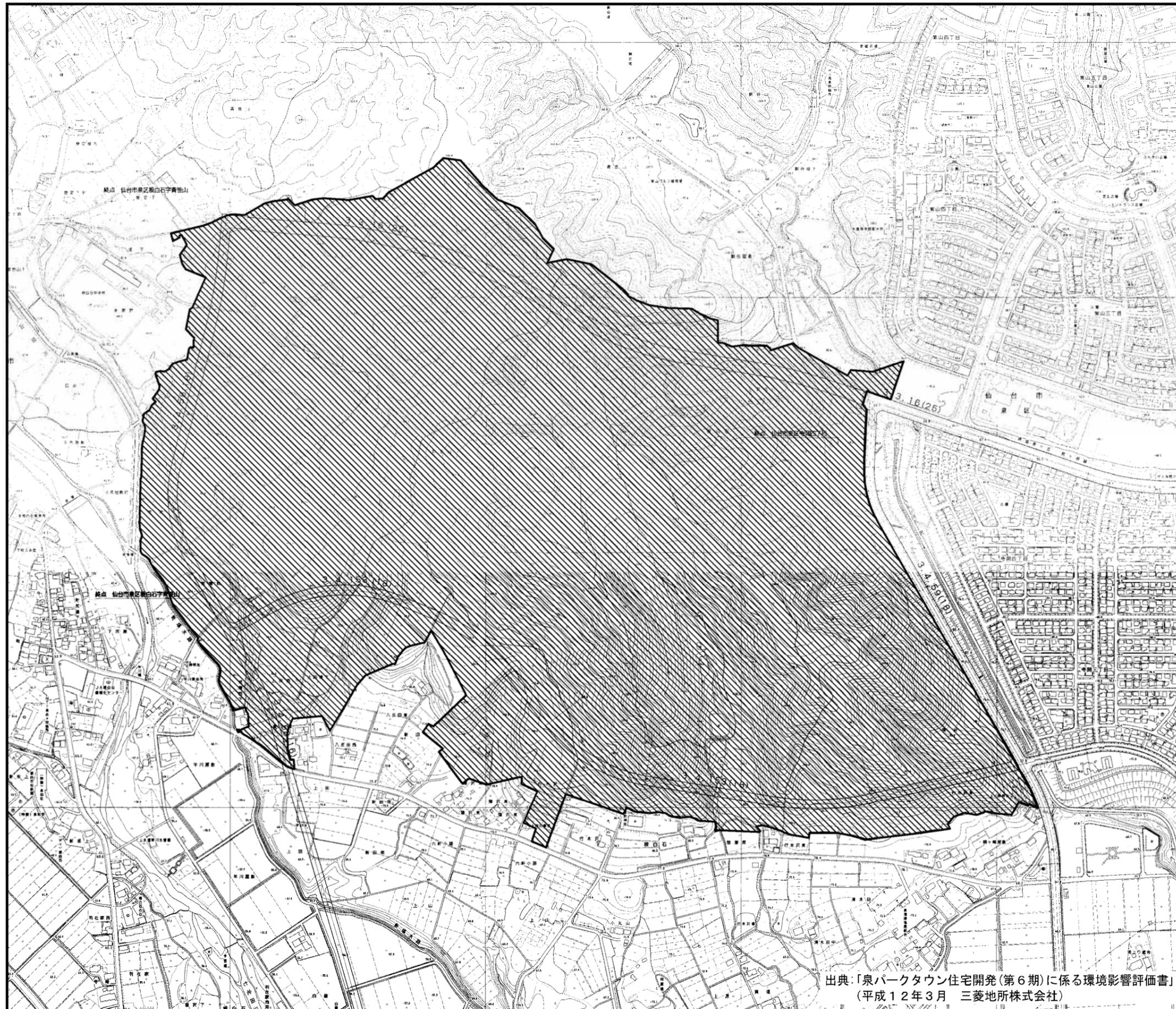
一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。



注目すべき種の保護の目的から
 確認位置に係わる情報は公表しない。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 3.1-37
 哺乳類確認位置図
 （平成12年3月評価書）



凡 例	
	フクロウ
	ノジコ
	チゴハヤブサ
	対象事業計画地

サシバ、チョウゲンボウ、ハリオアマツバメ、サンショウクイ

※出典で位置が確認できた注目種のみを記載した。

一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のリッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。



S=1:7,500

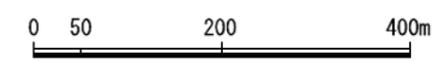
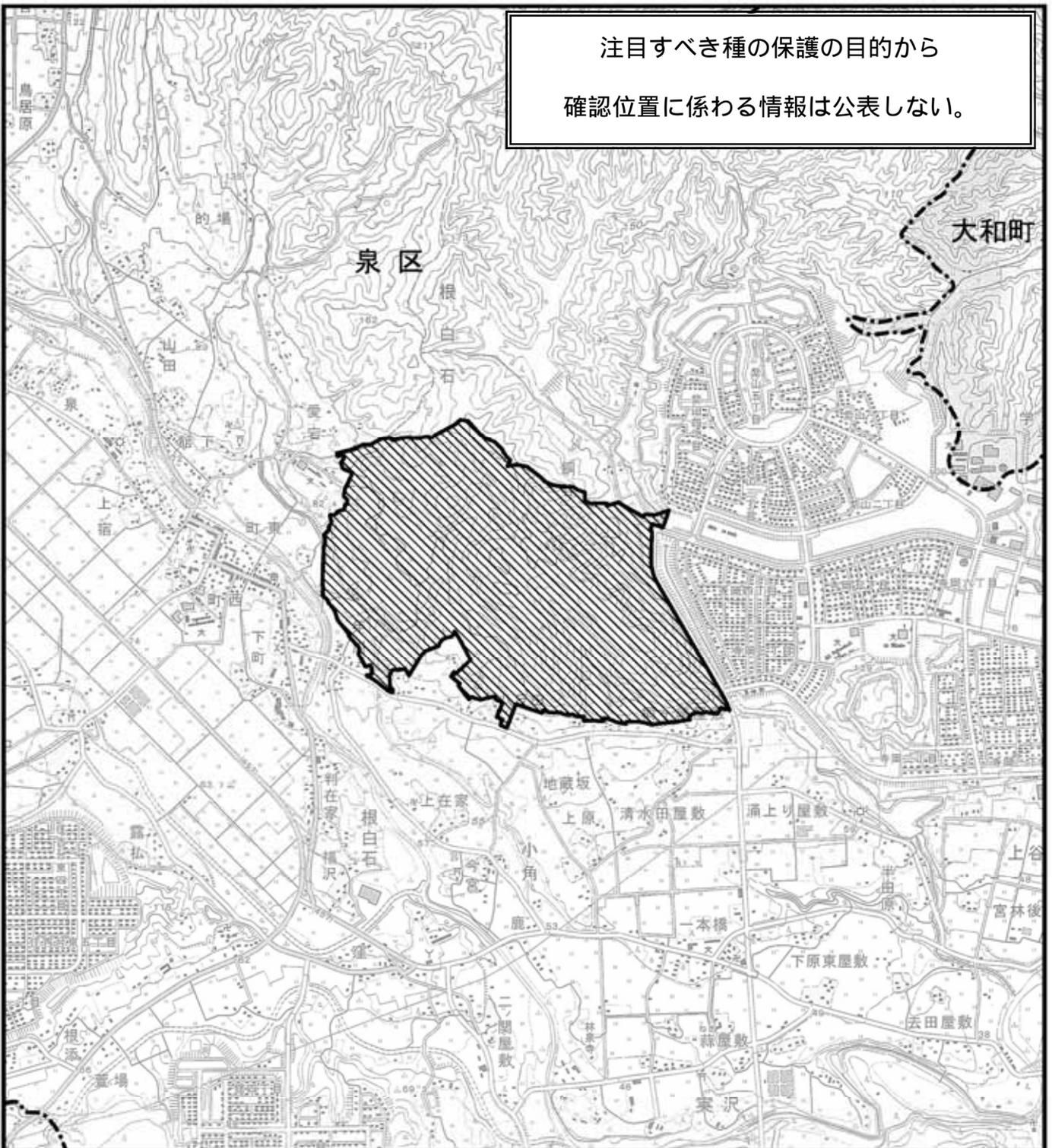


図 3.1-38
 注目すべき鳥類確認位置図
 (対象事業計画地内)
 (平成12年3月評価書)

出典:「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
 (平成12年3月 三菱地所株式会社)

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。



凡例

- | | | | | | |
|---|---------|---|--------|---|---------|
|  | 対象事業計画地 |  | チゴハヤブサ |  | カワガラス |
|  | 市区町境界線 |  | ヤマセミ |  | オオルリ |
|  | チュウサギ |  | カワセミ |  | サンコウチョウ |

※サシバ、チョウゲンボウ、ハリオアマツバメ、サンショウクイ

※出典で位置が確認できた注目種のみを記載した。

一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。

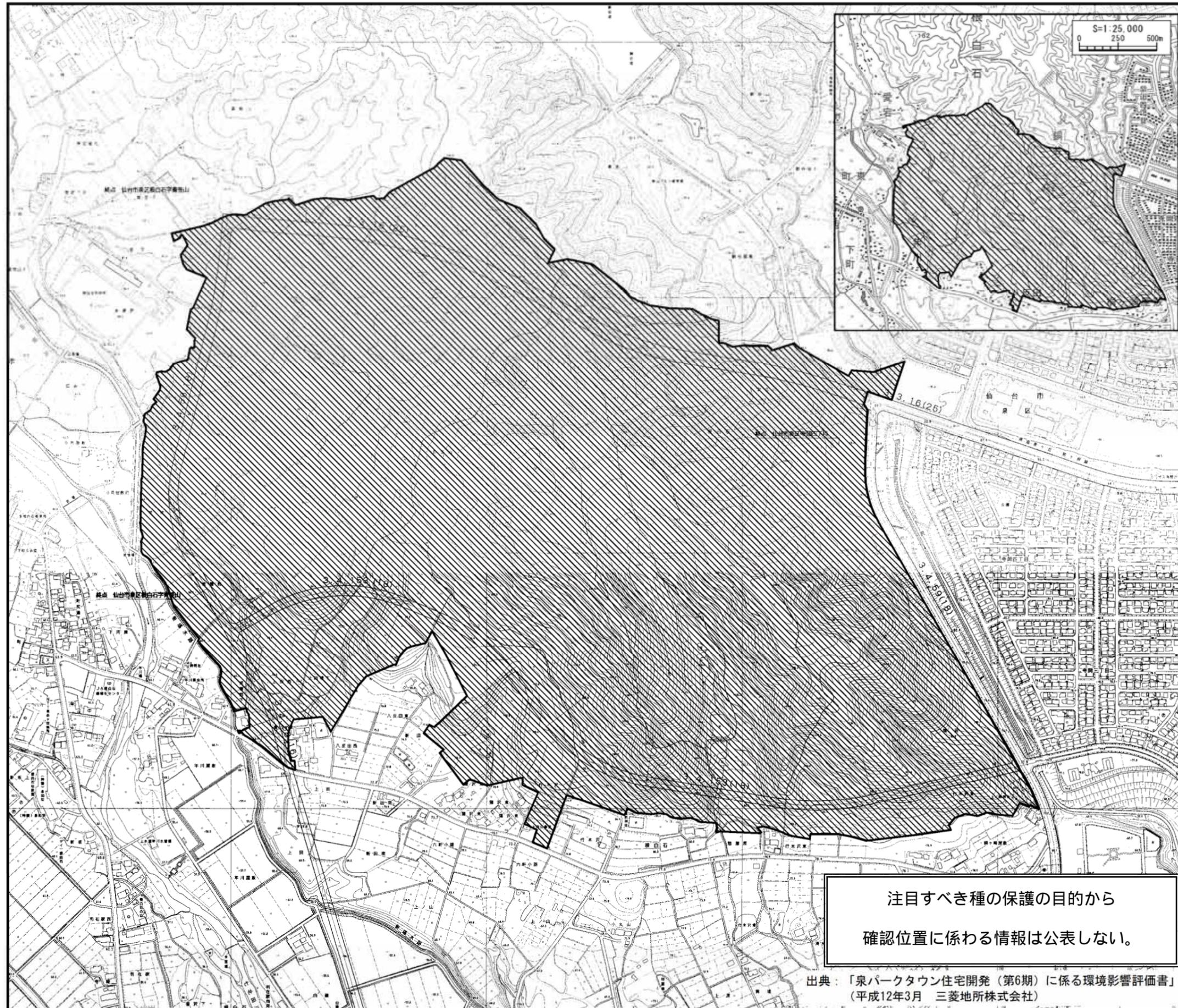
出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
（平成12年3月 三菱地所株式会社）



S=1:25,000

0 250 500 1000m

図 3.1-39
注目すべき鳥類確認位置図
（対象事業計画地周辺）
（平成12年3月評価書）



凡 例	
注目すべき種	
◆	アオダイショウ
確認種	
●	カナヘビ
★	マムシ
▲	シマヘビ
■	ヤマカガシ
▨	対象事業計画地

※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

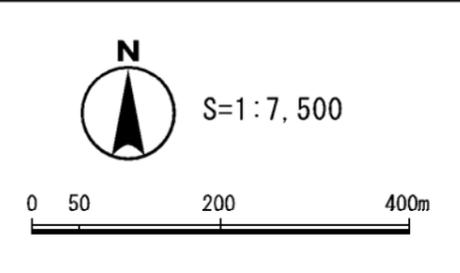
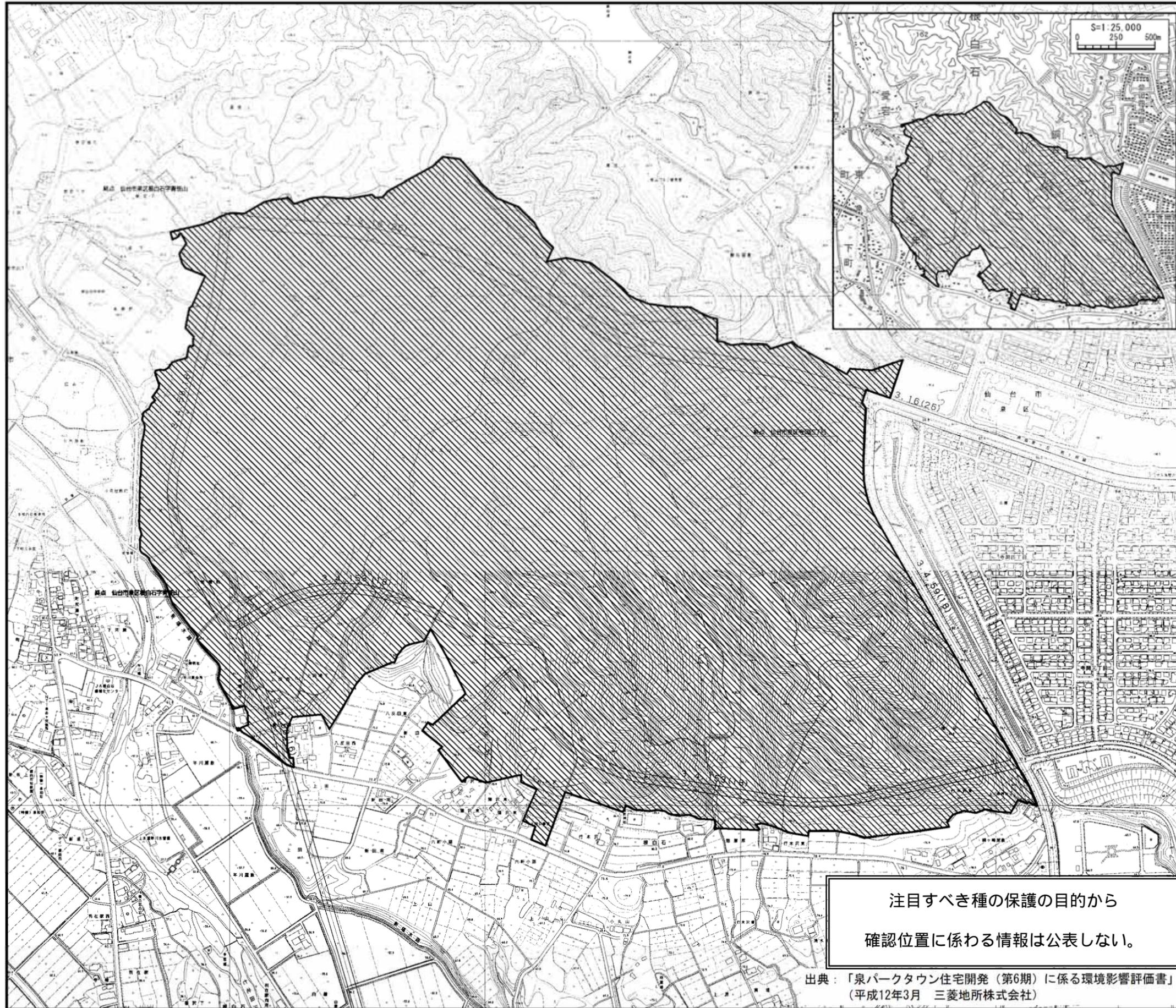


図 3.1-40
爬虫類確認位置図
（平成12年3月評価書）



注目すべき種の保護の目的から
 確認位置に係わる情報は公表しない。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

凡例	
注目すべき種	
●	トウホクサンショウウオ
▲	クロサンショウウオ
■	アズマヒキガエル
★	タゴガエル
◆	トウキョウダルマガエル
▼	ツチガエル
●	アカハライモリ
確認種	
■	アマガエル
◆	ウシガエル
▲	シュレーゲルアオガエル
▨	対象事業計画地

※ニホンアカガエルは、
 ※右上の1/25,000の図は対象事業計画地
 外の確認地点を表したものである。

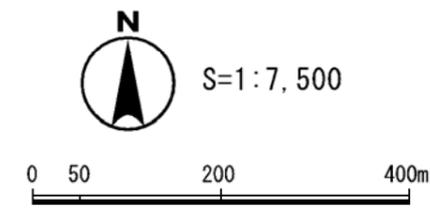
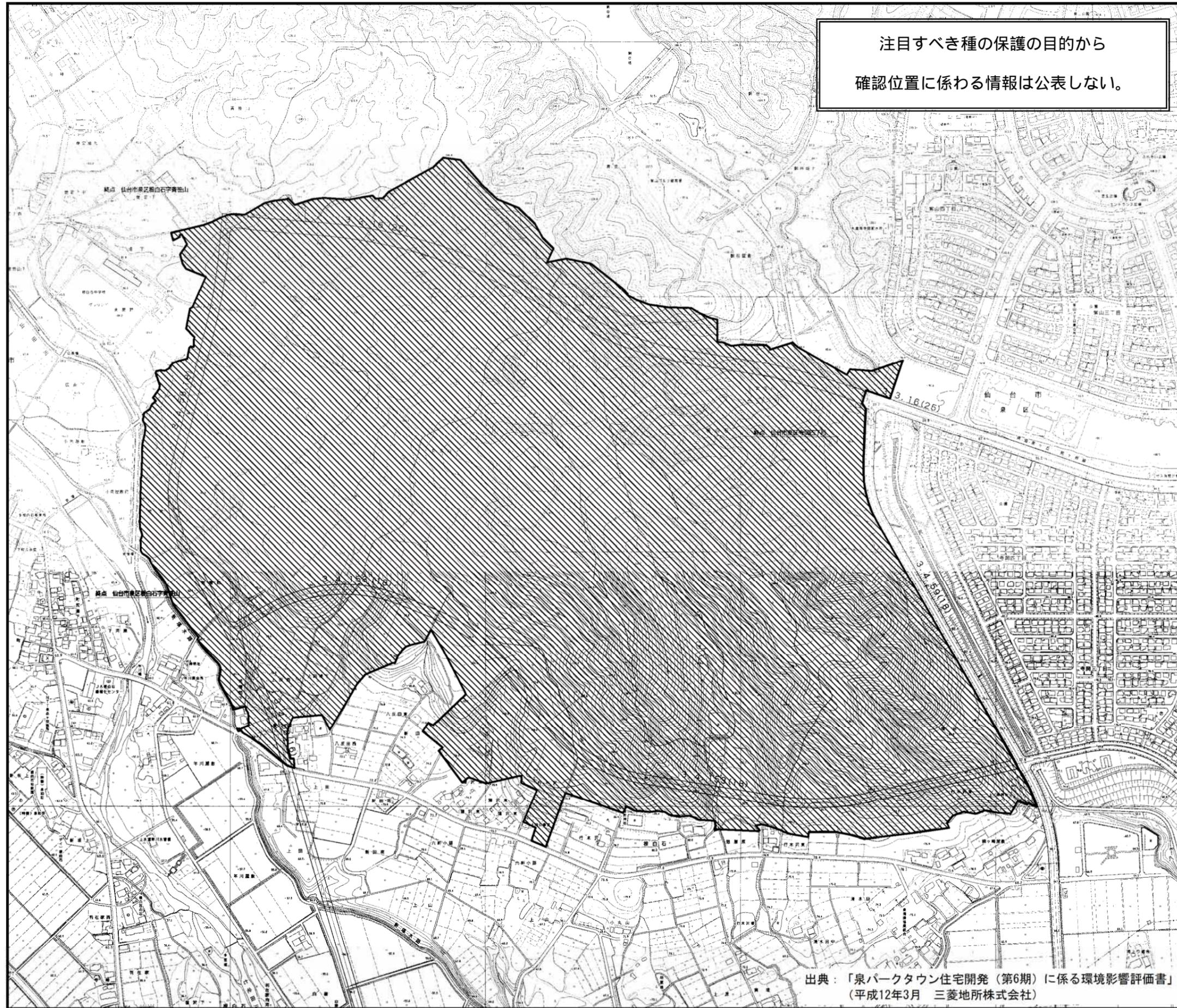


図 3.1-41
 両生類確認位置図
 （平成12年3月評価書）

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。



凡例	
種名	注目すべき種
種名	確認種
	対象事業計画地



S=1:7,500

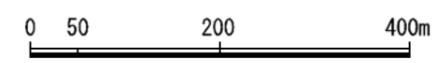
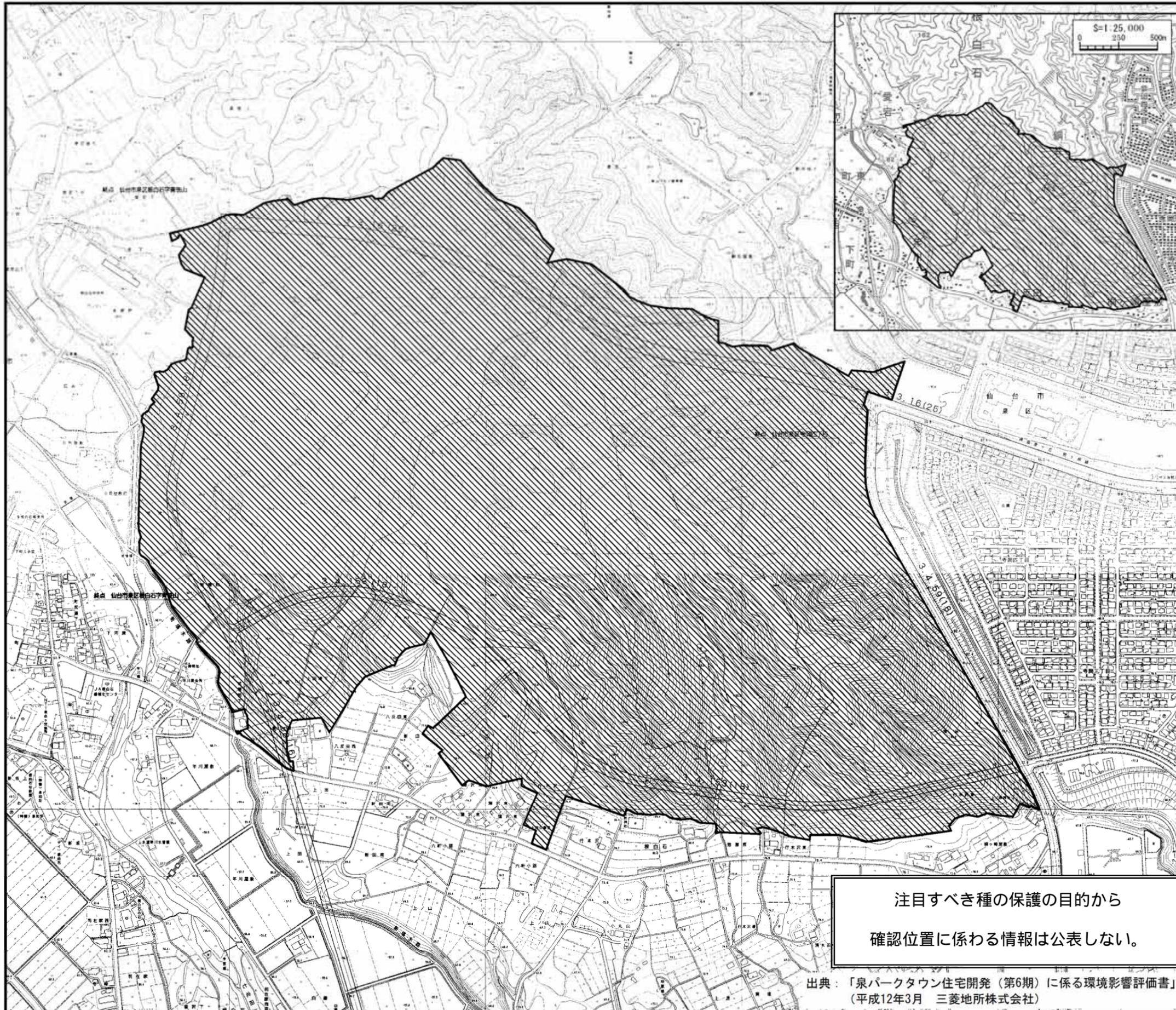


図 3.1-42
魚類確認位置図
(平成12年3月評価書)

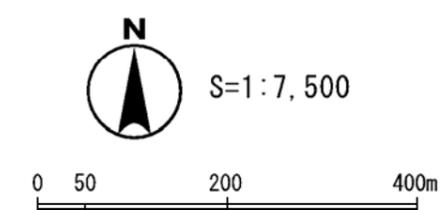
出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
(平成12年3月 三菱地所株式会社)



凡例	
注目すべき種	
●	ゲンジボタル
★	タガメ
確認種	
●	エゾイトトンボ
●	オゼイトトンボ
●	オオツノトンボ
●	マガタマハンミョウ
●	ヘイケボタル
▨	対象事業計画地

※出典で位置が確認できた注目種のみを記載した。
 ※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。

一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県レッドリスト改訂により、平成12年当時は注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。



注目すべき種の保護の目的から
 確認位置に係わる情報は公表しない。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 3.1-43
 注目すべき昆虫類確認位置図
 （平成12年3月評価書）

平成 12 年 3 月評価書において、対象事業計画地周辺を含む調査地域（対象事業計画地及びその周辺約 1000m の範囲）で希少猛禽類調査を実施している。希少猛禽類の確認状況は表 3.1-122、飛翔確認位置図は図 3.1-44～図 3.1-47 に示すとおりである。

平成 9 年 2 月から平成 10 年 7 月の調査で確認された希少猛禽類は、オオタカ、ハイタカ、ハチクマ、ハヤブサ、ミサゴ、チュウヒの 6 種である。なお、チゴハヤブサ、サシバ、チョウゲンボウについては平成 18 年 12 月の環境省鳥類レッドリスト改訂によりランクが上がったため、平成 12 年 3 月評価書では希少猛禽類の選定基準外である。

※希少猛禽類

一般的に猛禽類はタカ科、ハヤブサ科、フクロウ科の鳥類のことを指し、このうち、フクロウ科を除く猛禽類で希少性の高い(レッドリスト該当種)ものを希少猛禽類として、鳥類調査とは個別に現地調査の実施・整理している。

表 3.1-122 希少猛禽類の確認状況（平成 12 年 3 月評価書）

確認種	確認回数	確認状況
オオタカ	135	確認回数が調査期間中 135 回/32 日と最も多く、 [redacted]においてオオタカの営巣を確認した。 その後の繁殖状況調査で繁殖失敗が確認された また翌年の平成 10 年度は、営巣、繁殖は確認されなかった。
ハイタカ	44	冬季に多く確認され、確認位置も散発的であり対象事業計画地及び周辺での繁殖の可能性はほとんどないと考えられる。確認状況から対象事業計画地周辺の林縁部等を採餌場として利用していると考えられる。
ハチクマ	29	夏鳥として対象事業計画地周辺に渡来しており、5～7 月にディスプレイ飛翔、つがい雌雄 2 個体での飛翔が確認された。飛翔確認の多い [redacted]に営巣している可能性が高いと考えられる。
ハヤブサ	4	冬季に 4 回確認された。対象事業計画地は本種の本来の生息環境ではないことから、対象事業計画地に対する依存性はなく、採餌のため水田、屋敷林等を利用していると考えられる。
ミサゴ	3	散発的に 3 回確認された。対象事業計画地及び周辺は本種の本来の生息環境ではないことから、確認個体は移動途中の通過個体であり、対象事業計画地に対する依存性はないと考えられる。
チュウヒ	1	平成 9 年 4 月に 1 回確認された。冬鳥として渡来するが、対象事業計画地及び周辺は本種の本来の生息環境ではないことから、確認個体は移動途中の通過個体と考えられる。
チゴハヤブサ	—	散発的な確認であり、確認個体は移動途中の通過個体と考えられる。
サシバ	—	夏鳥として渡来し数多く確認され、開発地域では夏季を中心に普通にみられる。
チョウゲンボウ	—	事業計画地周辺での水田、屋敷林での確認が多く、開発地域に対する依存性はほとんどないと考えられる。

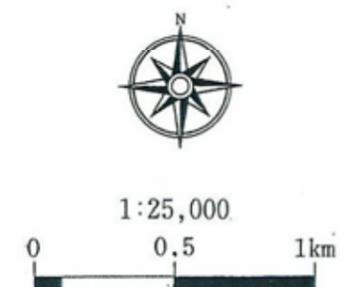
注) ①チゴハヤブサ、サシバ、チョウゲンボウの 3 種は、平成 12 年当時、希少猛禽類ではないが、飛翔を確認した貴重種（「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）における注目すべき種）であるため、表内に示した。

②平成 12 年 3 月評価書において、チゴハヤブサ、サシバ、チョウゲンボウの 3 種の確認回数の記載は無いため「—」と記載した。

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

凡 例	
	オオタカ飛翔コース
	オオタカ営巣木
	調査地点
	対象事業計画地

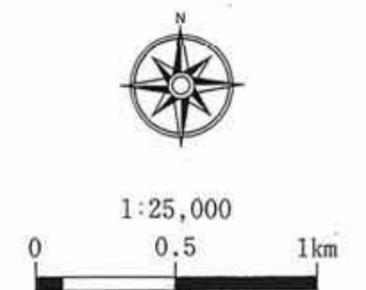
図 3.1-44
オオタカ飛翔確認位置図
(平成12年3月評価書)



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

凡 例	
—	ハイタカ飛翔コース
●	調査地点
	対象事業計画地

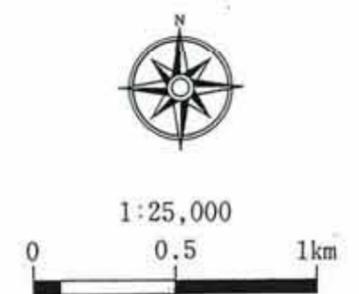
図 3.1-45
ハイタカ飛翔確認位置図
(平成 12 年 3 月評価書)



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

凡 例	
—	ハチクマ飛翔コース
●	調査地点
	対象事業計画地

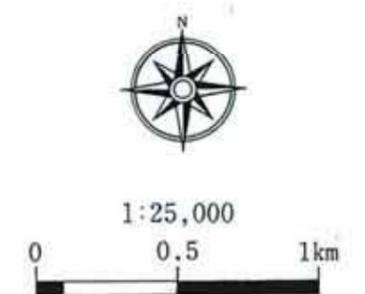
図 3.1-46
ハチクマ飛翔確認位置図
(平成 12 年 3 月評価書)



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

凡 例	
	ミサゴ飛翔コース
	チュウヒ飛翔コース
	ハヤブサ飛翔コース
	対象事業計画地
	調査地点

図 3.1-47
ミサゴ、チュウヒ、ハヤブサ
飛翔確認位置図
(平成 12 年 3 月評価書)



c. 事業者による希少猛禽類の自主調査

平成 19 年～平成 24 年にかけて、対象事業計画地周辺を含む調査地域（対象事業計画地及びその周辺約 1000m の範囲）で希少猛禽類調査を実施している。調査内容及び調査期間は、定点観察調査を平成 19 年～平成 21 年に実施し、林内踏査を平成 19 年～平成 22 年及び平成 24 年に実施している。

・定点観察調査

平成 19 年～平成 21 年に実施した定点観察調査による希少猛禽類の確認状況は表 3.1-123、定点観察調査の定点位置図は図 3.1-48、飛翔確認位置図は図 3.1-49～図 3.1-55 に示すとおりである。

定点観察調査で確認された種は、オオタカ、ハイタカ、ハチクマ、ハヤブサ、サシバ、ミサゴ、チュウヒの 7 種であり、確認種のうち、オオタカの繁殖が示唆された。

表 3.1-123 定点観察調査による希少猛禽類の確認状況（平成 19 年～平成 21 年）

確認種	確認回数	確認状況
オオタカ	147	<p>平成 19 年は、対象事業計画地内において、オオタカの活動が確認され、巣立った幼鳥の確認には至らなかったが、事業計画地内に執着している様子が示唆された。</p> <p>平成 20 年は、[] に執着する 2 組のつがいが存在することが明らかとなった。[] に執着するつがいの行動圏の中心は、[] にかけてと推定され、[] に執着するつがいの行動圏の中心は、[] にかけてと推定される。なお、[] は狩りがみられたことから、餌狩場として利用されていると考えられる。</p> <p>平成 21 年においても、2 組のつがいとみられる個体が探餌や異種への攻撃といった指標行動を伴う飛翔が確認されており、[] への執着が示唆されている。</p>
ハイタカ	23	<p>平成 20 年は計 6 回散発的に確認されたが、繁殖行動等はなく、確認回数も少ないことから通過個体と考えられる。</p> <p>平成 21 年は [] に計 17 回確認された。4/24 には 6 回確認され、そのうち雌雄が同時出現し、突っかかりの繁殖行動が確認されているが、その後、確認されておらず、散発的であることから対象事業計画地及び周辺での繁殖の可能性はないと考えられる。</p>
ハチクマ	23	<p>夏鳥として対象事業計画地周辺に渡来しており、平成 20 年、平成 21 年とも雌雄複数個体が確認され、事業計画地内から羽ばたく個体もみられたが、殆どの場合北側に飛び去り、事業計画地内に戻らなかったこと、以降の調査では確認されていないことから、確認個体は通過個体であり、対象事業計画地及び周辺での営巣の可能性はないと考えられる。</p>
ハヤブサ	11	<p>[] で飛翔が確認された。確認回数も少なく繁殖に係る指標行動はみられないことから、対象事業計画地及び周辺での繁殖の可能性はないと考えられる。</p>
サシバ	10	<p>夏鳥として対象事業計画地周辺に渡来しており、[] で確認された。平成 19 年に [] で幼鳥が確認され、周辺で繁殖したと考えられる。平成 20 年は対象事業計画地内での確認はなく、確認回数も少ないことから、対象事業計画地及び周辺で繁殖した可能性はないと考えられる。</p>
ミサゴ	10	<p>[] で確認された。対象事業計画地及び周辺は本種の本来の生息環境ではないことから、確認個体は移動途中の通過個体であり、対象事業計画地に対する依存性はないと考えられる。</p>
チュウヒ	1	<p>平成 20 年 10 月 14 日に 1 回確認された。[] の飛翔であったが、繁殖行動等はみられず、確認回数も 1 回であることから通過個体と考えられる。</p>

・林内踏査

平成 19 年～平成 22 年及び平成 24 年に実施した林内踏査で確認された巣の一覧及び営巣状況は表 3.1-124, 巣の位置図は図 3.1-56 に示すとおりである。

林内踏査は, 定点確認調査において繁殖が示唆されたオオタカを対象として実施し, その結果は以下に示すとおりである。

平成 9 年に確認された [] では, 平成 19 年 4 月の調査では, []

平成 19 年 4 月, 平成 20 年 4 月, 平成 21 年 4 月に []

[] を確認した。このつがいは, 定点観察調査で確認された [] と考えられた。 [] を確認した。平成 22 年には, [] と判断した。平成 24 年には, [] が確認された。

また, 平成 20 年 4 月に []

[] を確認した。このつがいは, 定点観察調査で確認された [] と考えられた。6 月の繁殖状況調査で []

[] が確認された。平成 21 年 3 月には, []

[] が確認されたが, 4 月には []

[] を確認した。6 月下旬に [] が確認され

たことから, [] と考えられ, [] が確認された。平成 22 年は, [] した。

平成 24 年には, [] と考えられた。

なお, オオタカ以外の猛禽類についても, [] しており, [] を確認した。ノスリについては, 平成 20 年に [] している。

表 3.1-124 林内踏査により確認された巣の一覧及び営巣状況(平成 19 年～平成 22 年及び平成 24 年)

NO.	巣 NO.	利用種 ^{※1}	巣の利用状況 ^{※2}						備考
			～H11	H19	H20	H21	H22	H24	

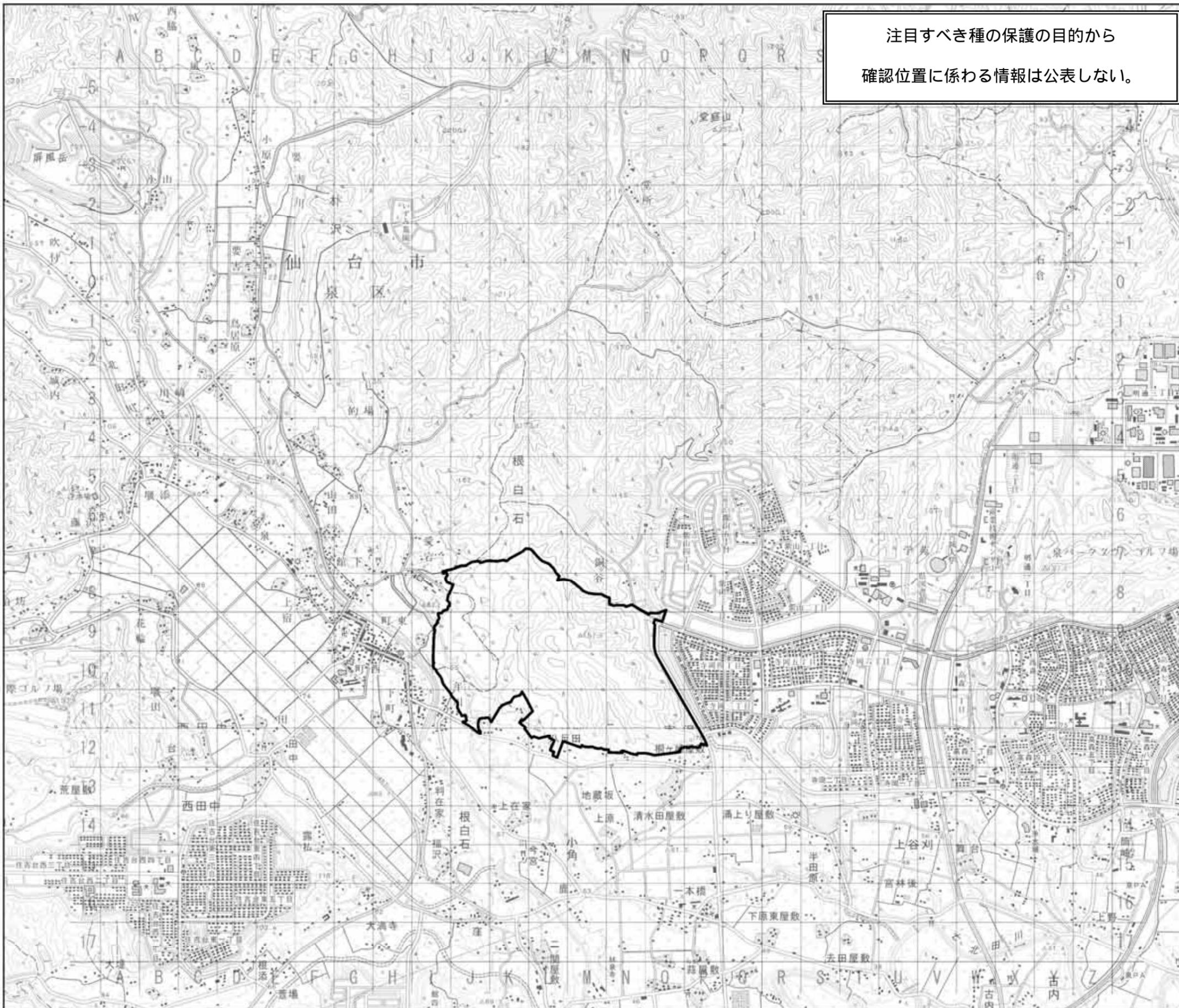
※1：利用種が確定できないものは、不明と記載している。

※2：巣の利用状況の凡例は以下に示すとおり。

◎…巣利用，繁殖成功 △…巣利用，繁殖失敗 ×…巣利用なし 不明…巣利用不明 斜線（\）…調査対象外
 消失…営巣木に巣は確認されず，H11～H19 の間に落巣したと考えられるもの。

落巣…営巣木の直下に巣材が確認され，巣が明らかに落下した形跡があるもの。

注) 平成 24 年 12 月時点の情報である。



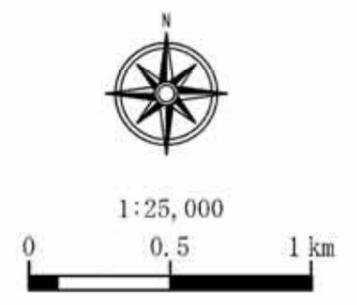
注目すべき種の保護の目的から
 確認位置に係わる情報は公表しない。

凡 例	
●	調査地点
○	対象事業計画地

● … 定点調査位置

※巢の名称の付け方は、下記のとおり。
 「最初の確認年-確認番号：確認種、(オオタカのみN+通算番号)」
 (例：「H19-5：オオタカ、N2」は、平成19年に初めて確認した5番目の猛禽類の巢で、オオタカの巢としては、通算2番目に確認した巢であることを示す。なお、Fは古巣を示す)

図 3.1-48 定点位置図



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣位置(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

- *1: 波状、突っかかりなど、単発的に行われるディスプレイ。
- *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
- *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号: 確認種 (オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔

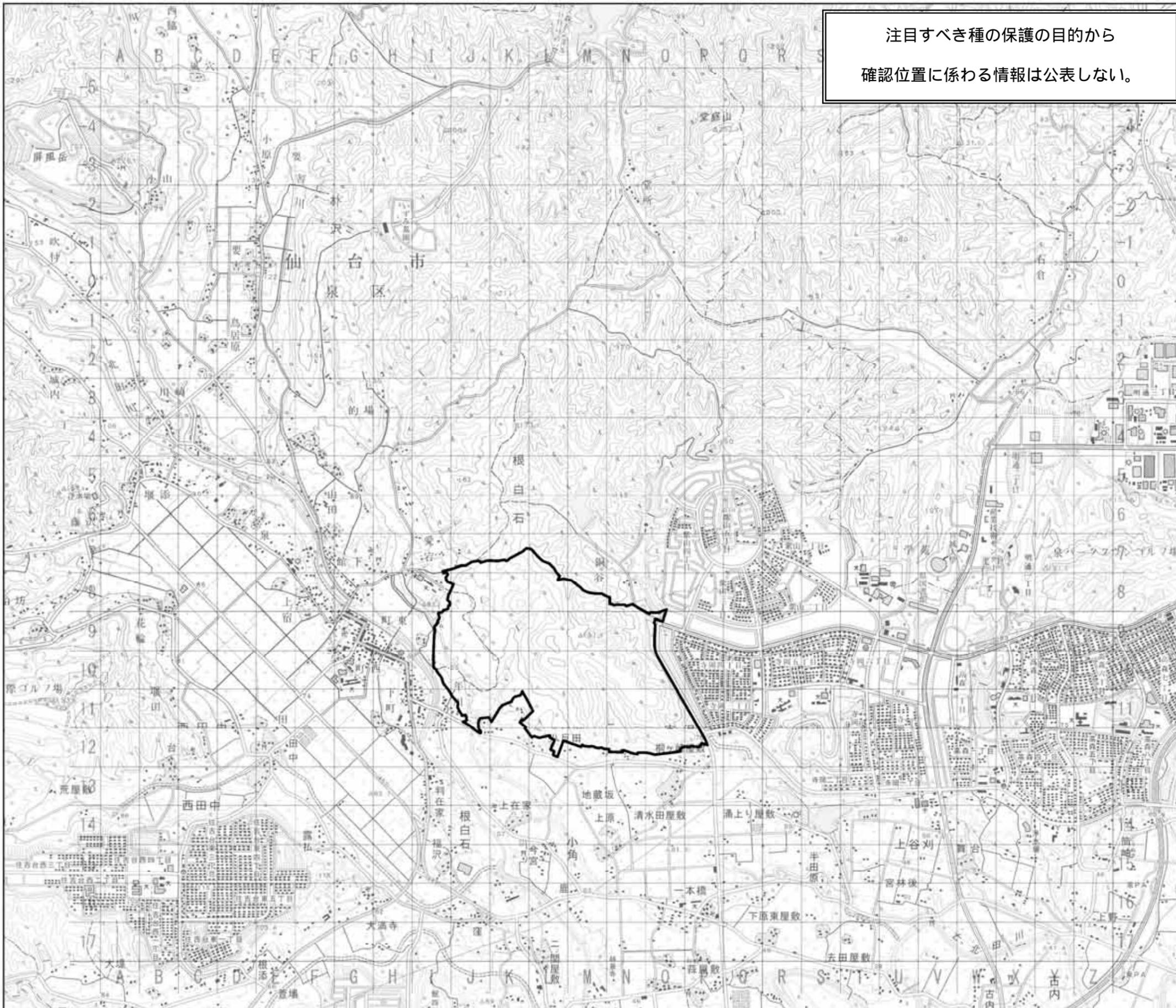
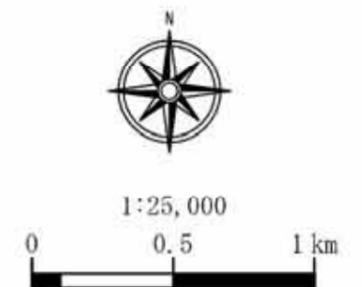


図 3.1-49 オオタカ飛翔確認位置図



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用中)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

- *1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
- *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
- *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号: 確認種
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

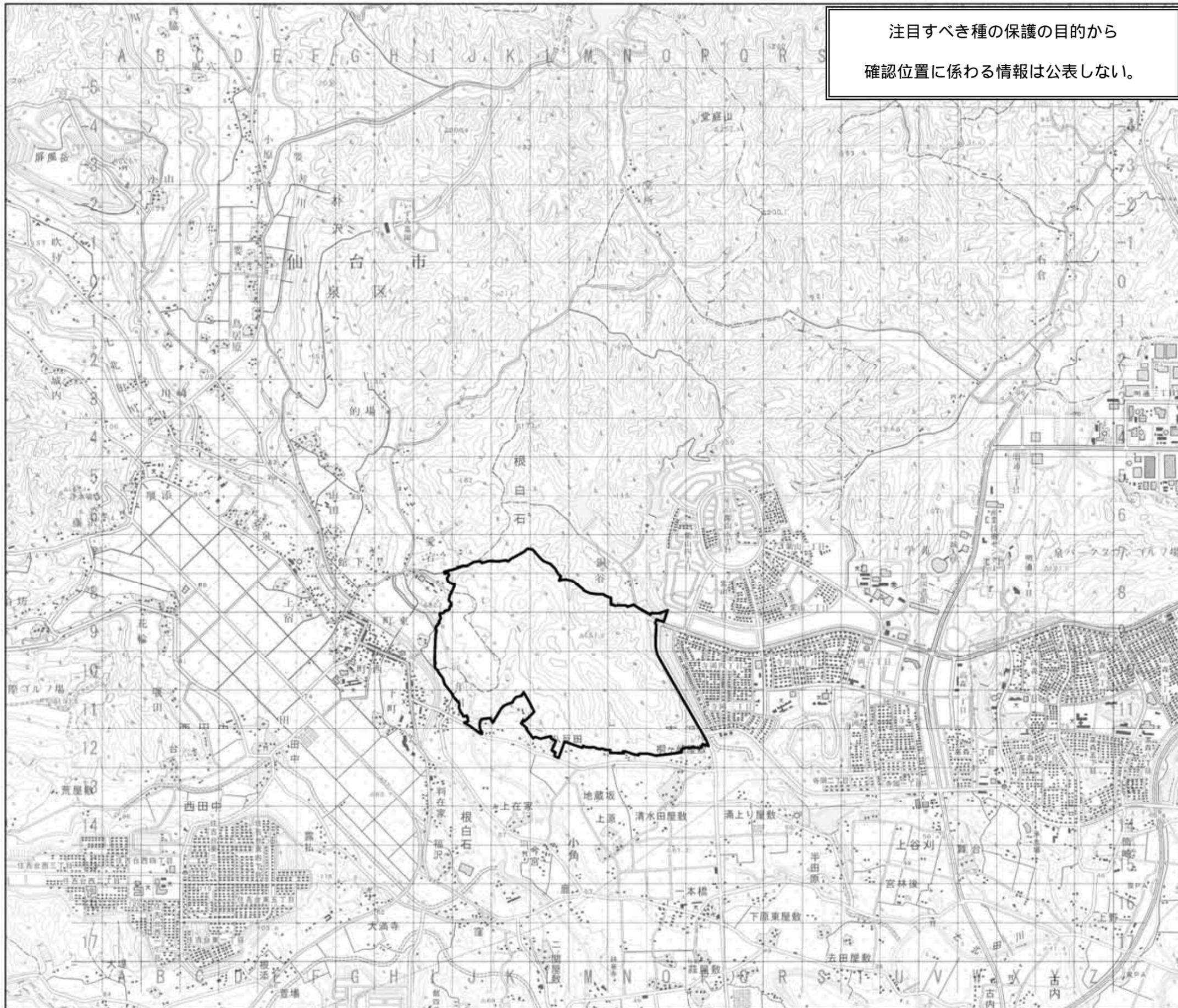
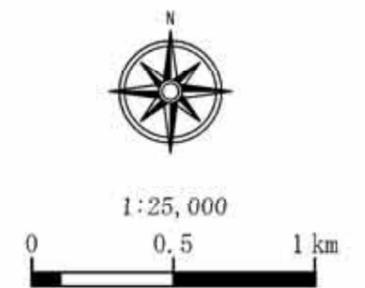
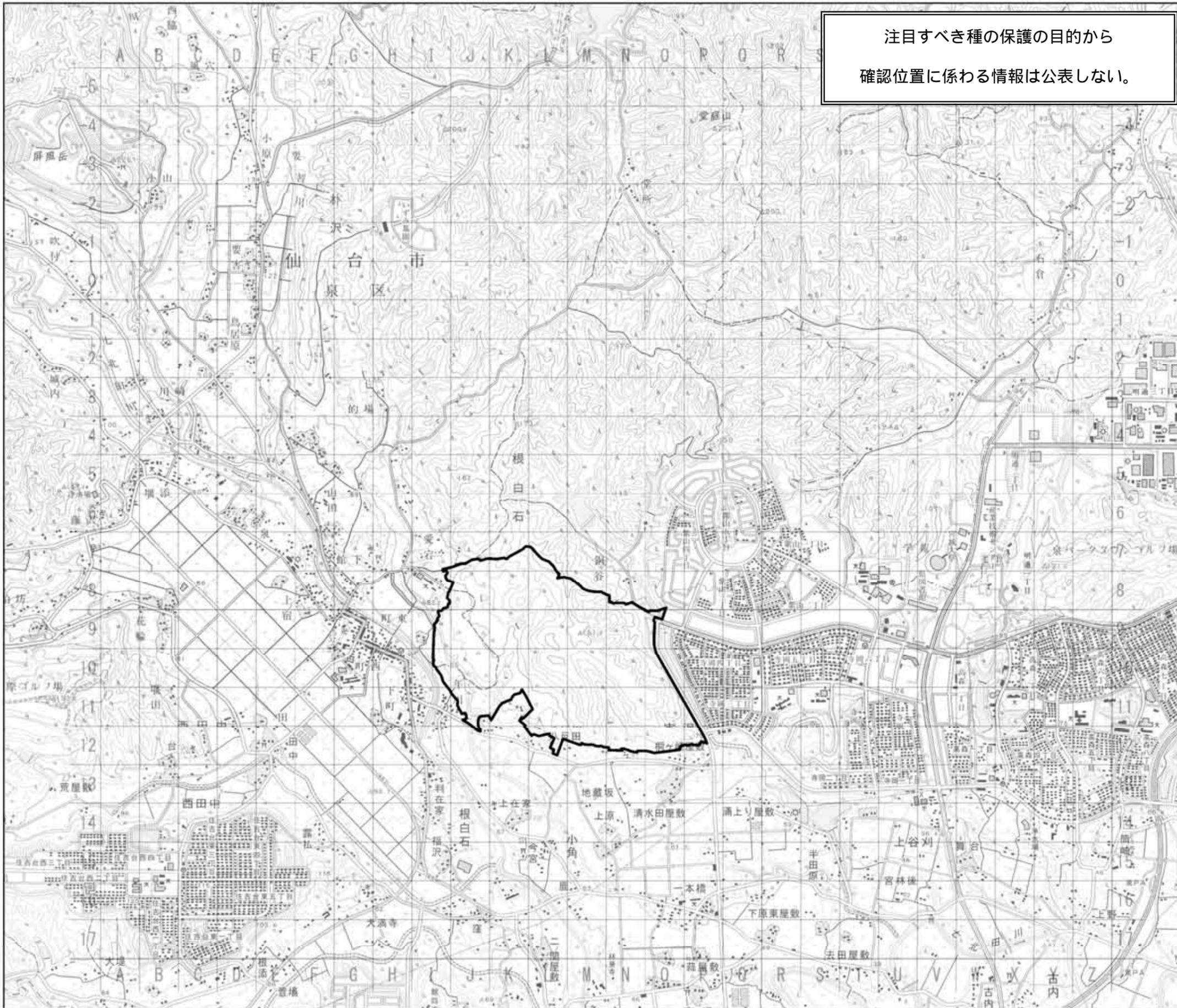


図 3.1-50 ハイタカ飛翔確認位置図



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

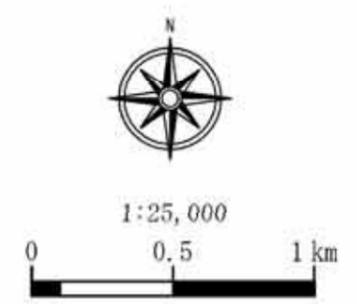


凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

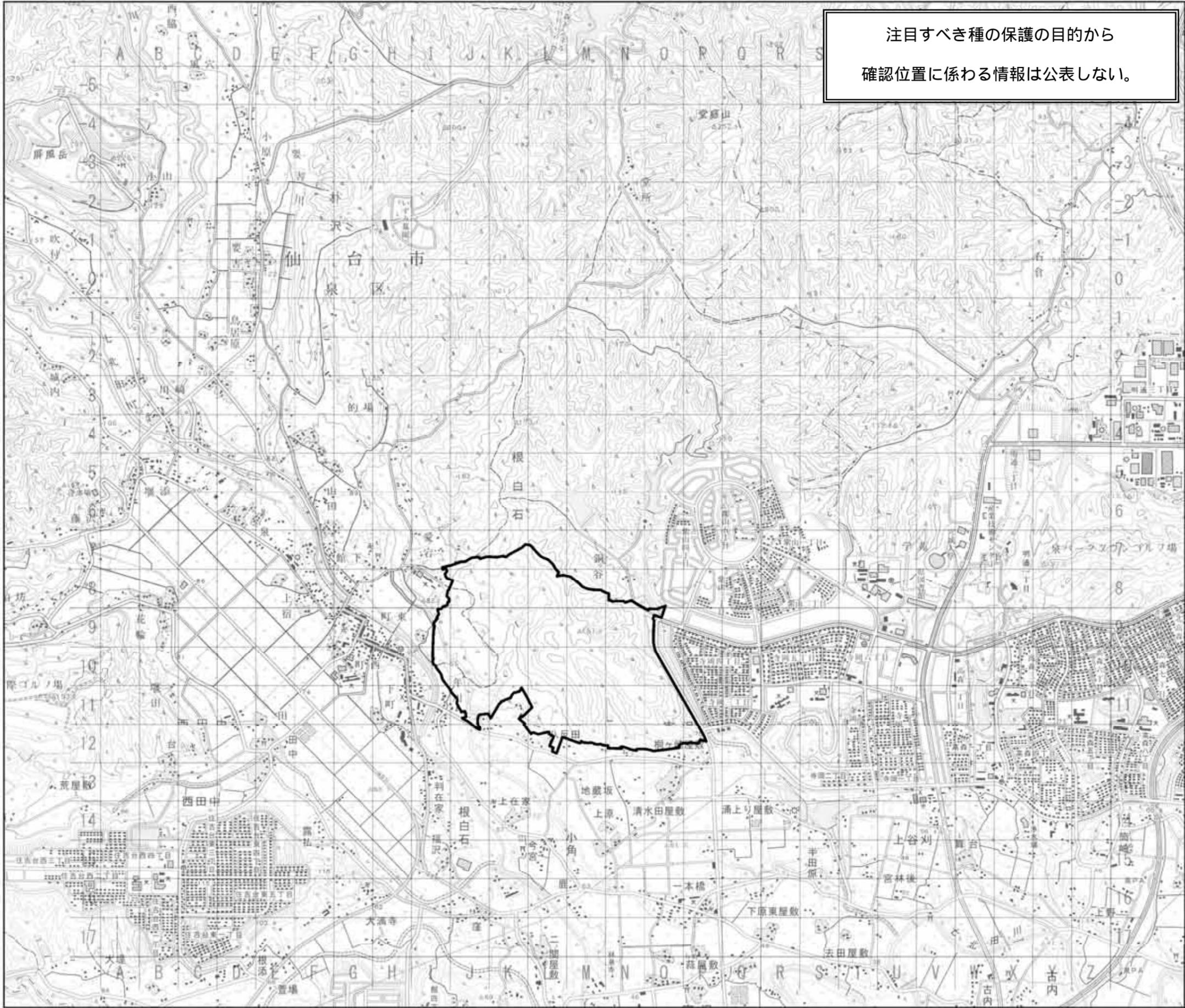
*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
*3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号・確認種、(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔

図 3.1-51 ハチクマ飛翔確認位置図



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

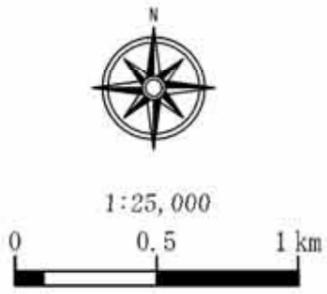


凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

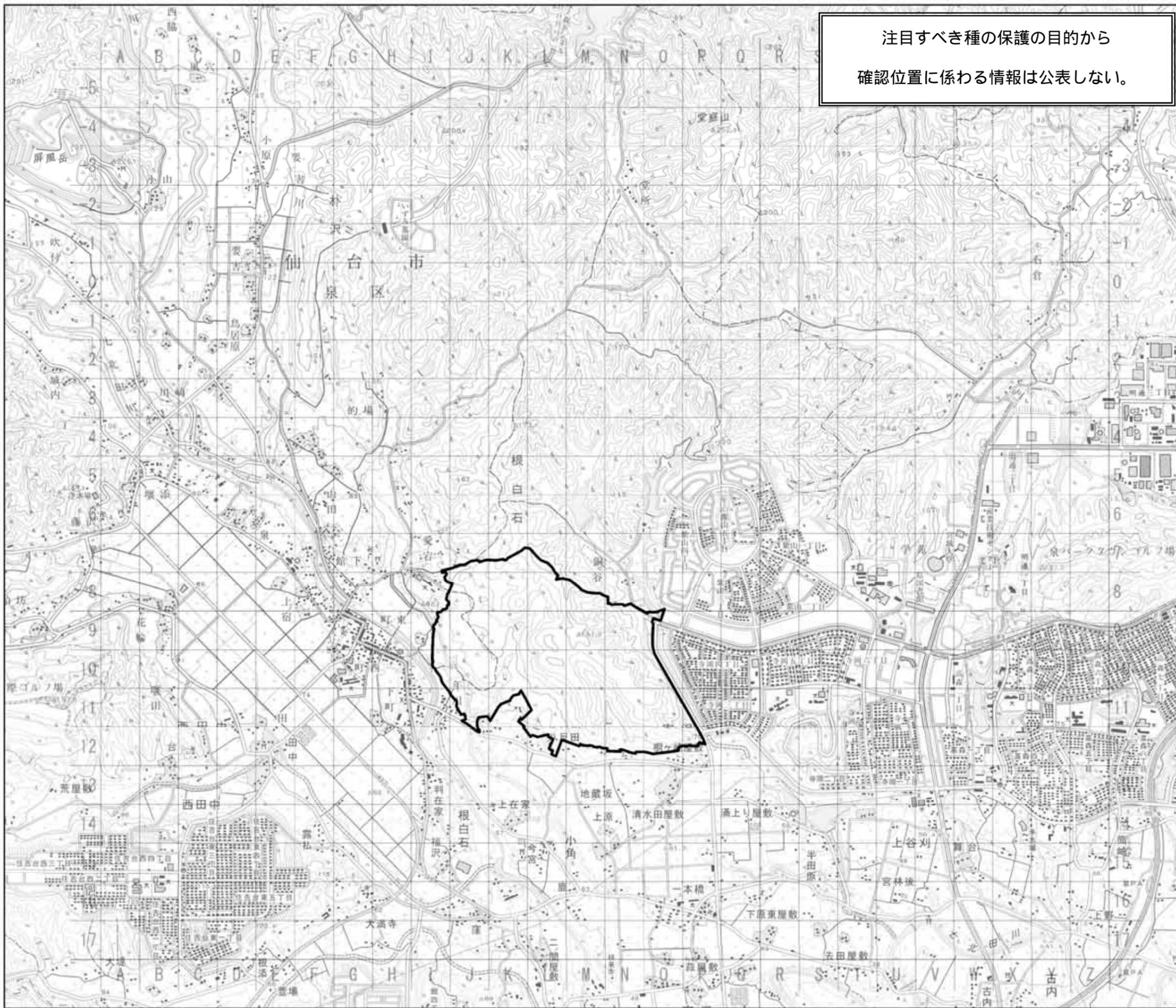
*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
*2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
*3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号: 確認種
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔
	ハヤブサ

図 3.1-52 ハヤブサ飛翔確認位置図



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

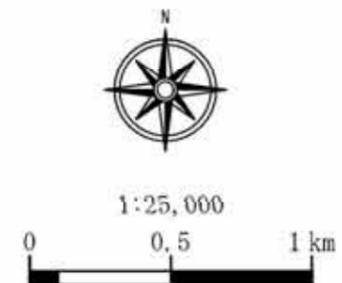


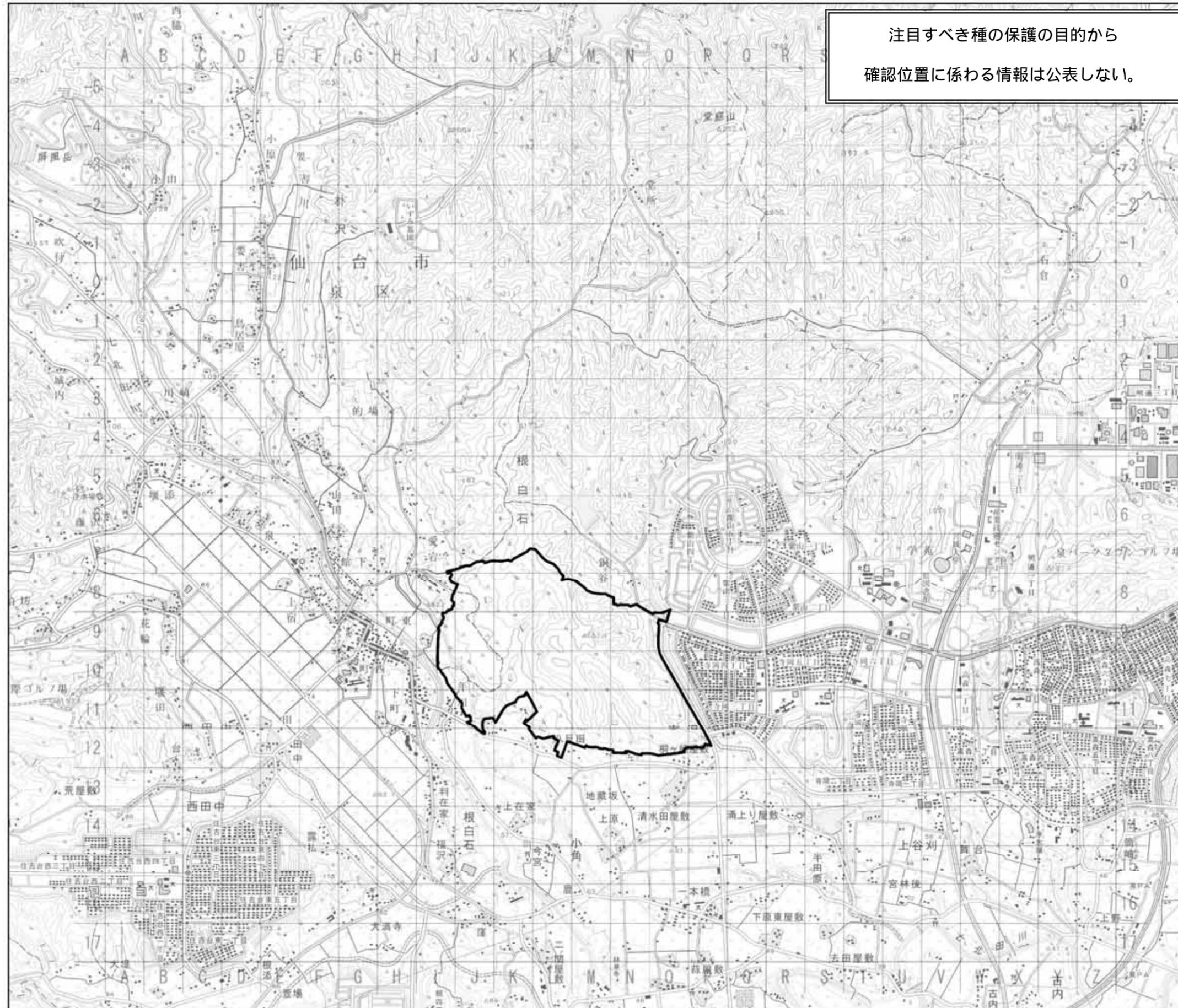
凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

*1: 波状、突っかかりなど、単発的に行われるディスプレイ。
 *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
 *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
 「最初の確認年-確認番号: 確認種」
 (オオタカのみN+通算番号)
 (例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔

図 3.1-53 サシバ飛翔確認位置図





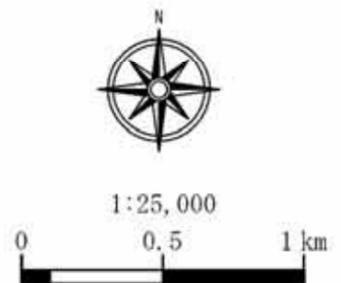
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

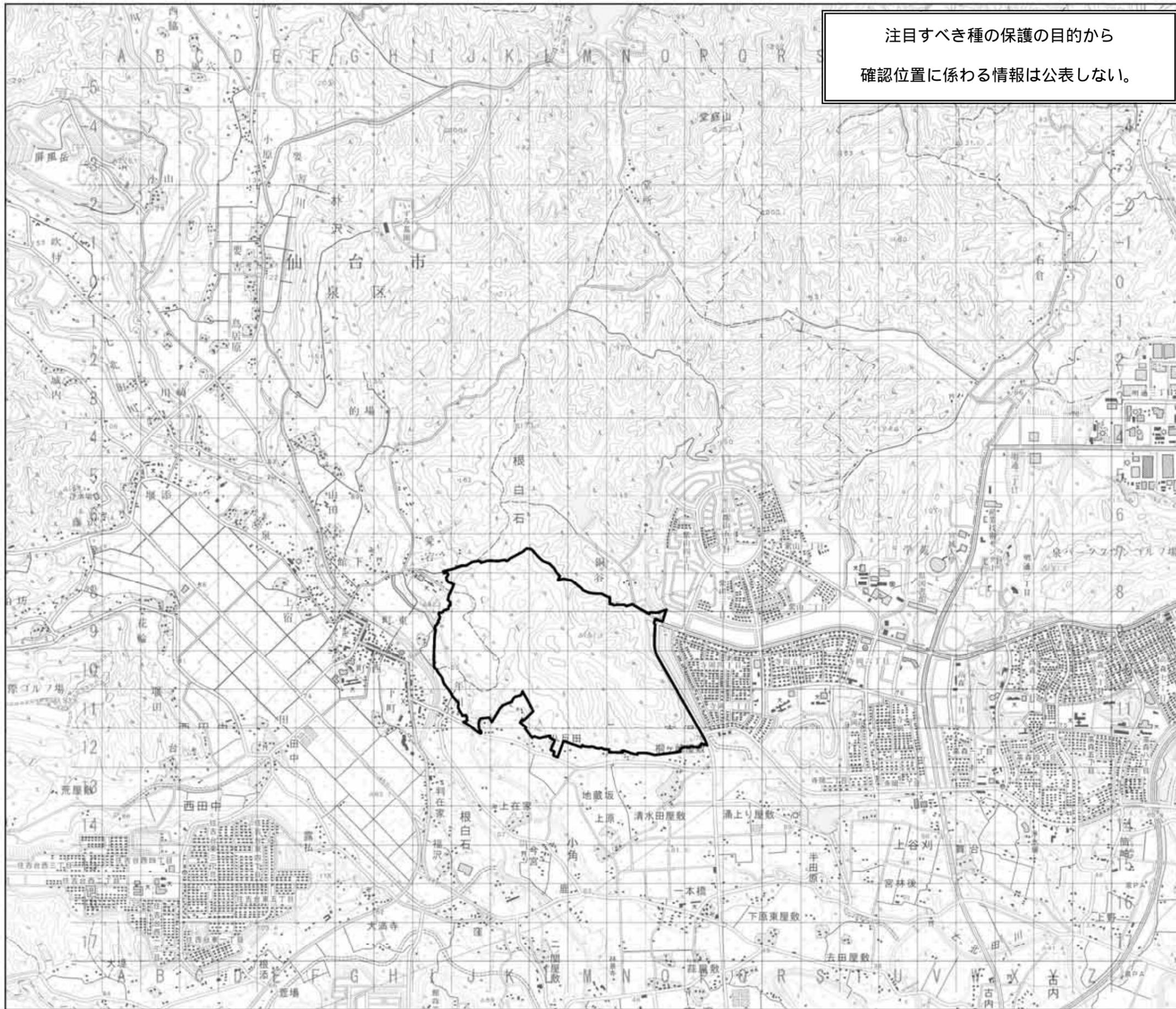
凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣位置(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

- *1: 波状、突っかかりなど、単発的に行われるディスプレイ。
- *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
- *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号: 確認種、(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔
	ミサゴ

図 3.1-54 ミサゴ飛翔確認位置図





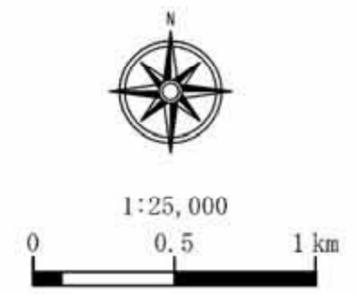
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

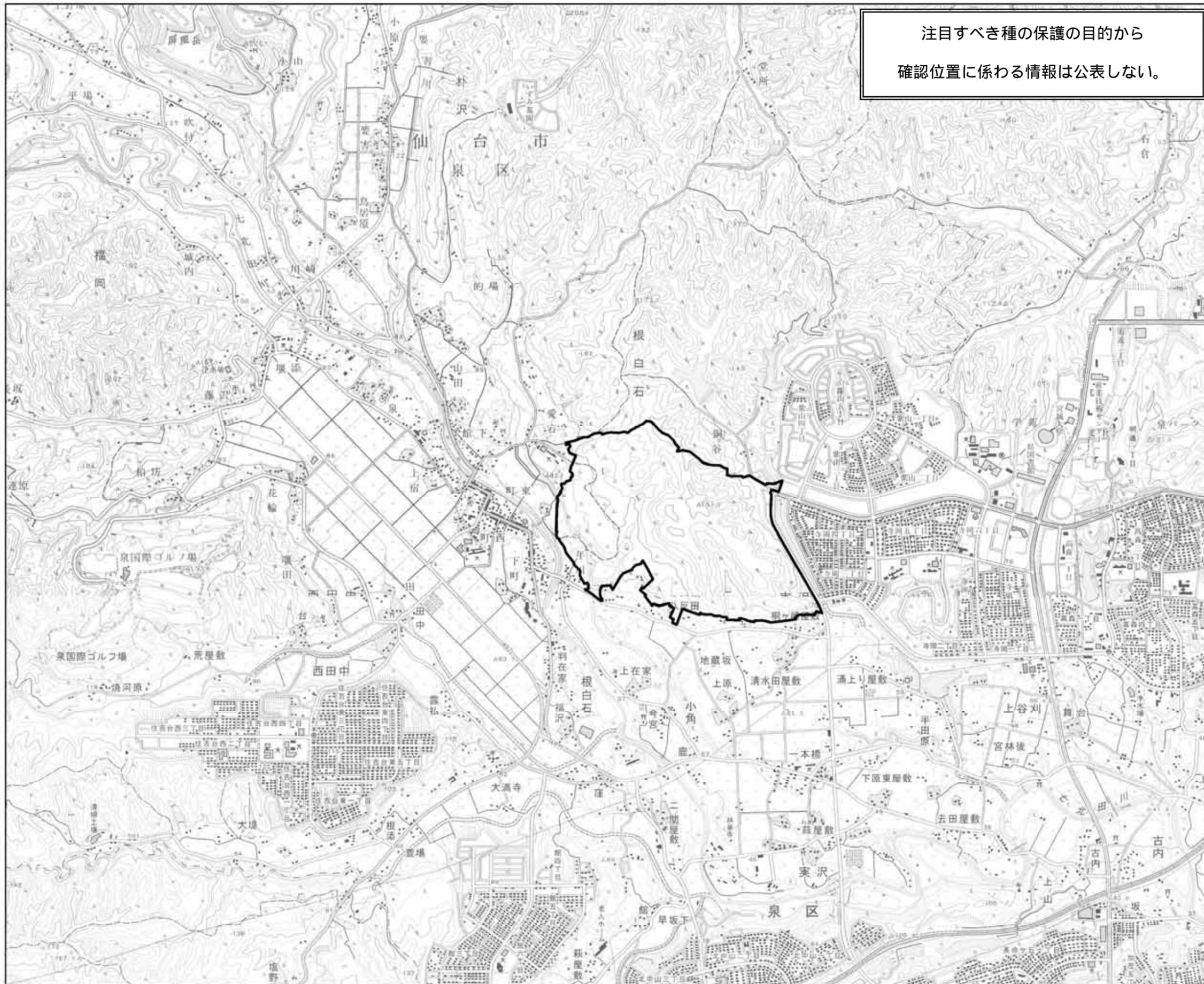
凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{*1}
	ディスプレイ ^{*2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

*1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
 *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
 *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
 「最初の確認年-確認番号: 確認種、(オオタカのみN+通算番号)」
 (例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔
	チュウヒ

図 3.1-55 チュウヒ飛翔確認位置図



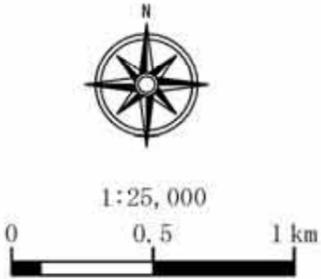


注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない。

凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
色凡例	■ 現存巣
	■ 落巣
○	オオタカを除く猛禽類
色凡例	■ 現存巣
	■ 落巣
▼	H24の調査対象外の巣
○	対象事業計画地

※巣の名称のつけ方は、下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号
(オオタカのみN+通算番号)」
(例:「H19-5(N2)」は平成19年に初めて確認した5番目の猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す。)
巣の位置は、平成19年度以降に事業者が自主的に実施した猛禽類調査に基づくものである。
※平成24年12月時点の情報である。

図 3.1-56
平成 19 年～平成 24 年に
確認された巣の位置図



イ. 動物生息地として重要な地域

a. 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）では、表 3.1-106 に示す選定基準により、動物生息地として重要な地域を選定しており、調査範囲においては、表 3.1-125 及び図 3.1-57 に示す動物生息地として重要な地域が存在する。なお、対象事業計画地は、「泉ヶ岳から根白石への緑の回廊」の地域内に位置している。

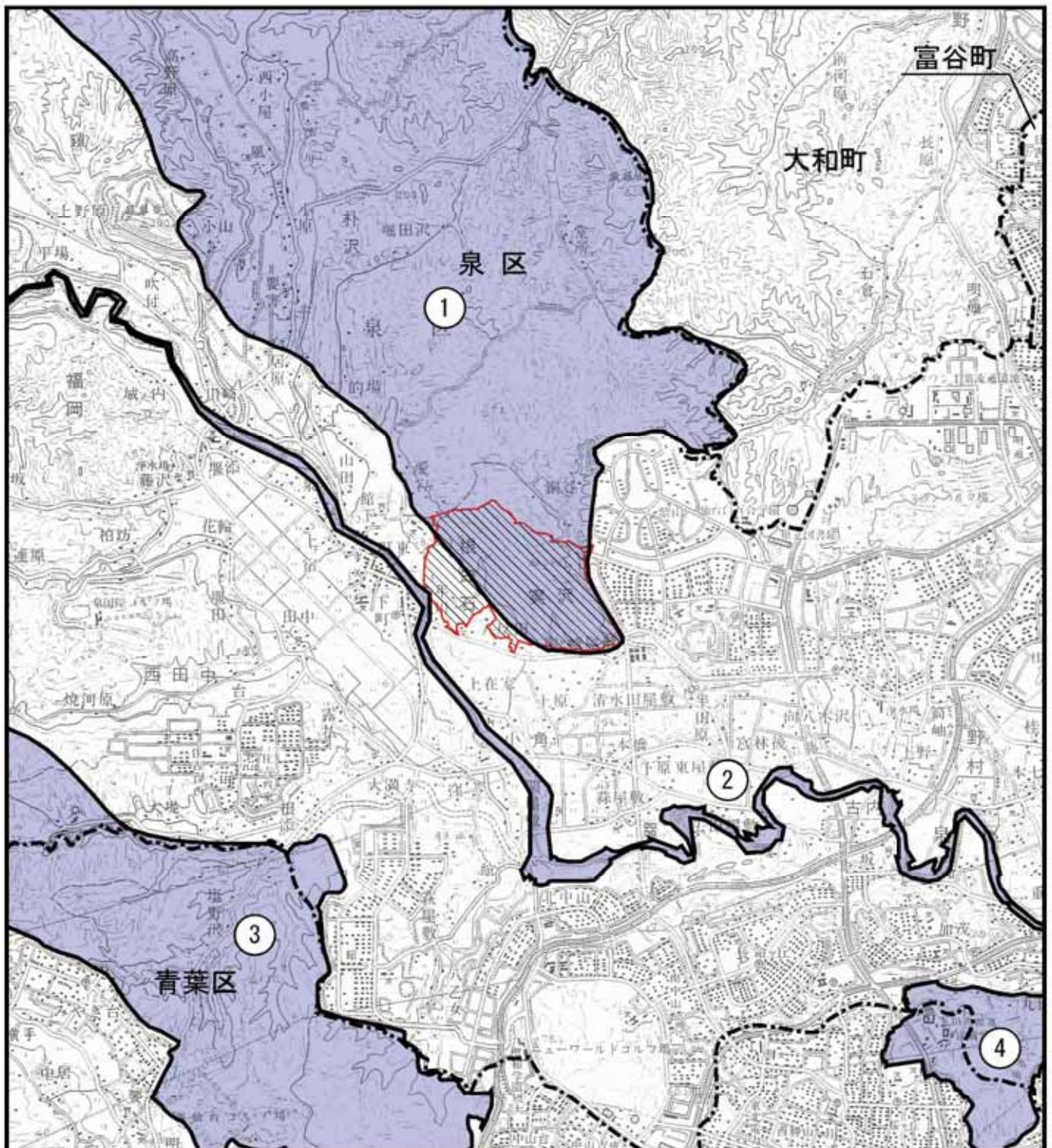
表 3.1-125 動物生息地として重要な地域

NO.	件名	備考	判断理由
①	泉ヶ岳から根白石への緑の回廊	・ 市域北部の動物生息環境，移動路として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2,8
②	七北田川（中流域～河口）	・ 川に接する地域の環境変化が著しく，動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくなっている。	2,8
③	奥羽山脈から大倉・芋沢丘陵地域への緑の回廊	・ 市域中央部の動物生息環境，移動路として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2,8
④	丸田沢緑地（水の森公園）	・ 市街地に残された池沼を含む緑地・公園である。市街地に残された動物の生息地，環境学習のフィールドとして重要である。	6,7

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

注：表中の NO.は図 3.1-57 の番号に対応する。

判断理由は表 3.1-106 に対応する。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 動物生息地として重要な地域
-  : 市区町境界線



S=1:50,000

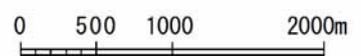


図 3.1-57
動物生息地として
重要な地域

出典：「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
(平成23年3月 仙台市)

ウ. 動物からみた事業予定地の位置づけ及び保全上の留意点

対象事業計画地は、北側から連続する丘陵地の南端部にあたり、南側は七北田川によって形成された段丘平野が広がっている。丘陵地の植生は、コナラ二次林やスギ・アカマツ植林によって大部分が占められる。また、西側には耕作放棄地が広がり里地・里山的な植生となっている。

対象事業計画地は山地地域と市街地地域のバッファゾーン（緩衝帯）として、本市の生物多様性の連続性を支える重要地域であることから、既往の調査結果で確認された注目すべき種を念頭に現地調査を実施し、保全対策を検討する。